

## 第2章

各教科、領域の改訂・授業改善のポイント及び展開例



小学校版

## 小学校 総 則

### 各学校

児童の人間として調和のとれた育成をめざし、地域や学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を十分考慮して、適切な教育課程を編成・実施

#### 1 教育課程編成の一般方針

##### ● 教育課程編成の原則

知・徳・体の基本的な考え方

- ・ 生きる力をはぐくむこと
- ・ 基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことに努めること



「学校教育法第30条」学力の三つの要素

- ・ その際、言語活動を充実することと、家庭との連携を図りながら、児童の学習習慣が確立するよう配慮すること

##### ● 道徳教育

- ・ 道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて、児童の発達の段階を考慮して行うものであること
- ・ 改正教育基本法を踏まえ、道徳教育の目標として、次の内容を追加

伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛し、公共の精神を尊び、他国を尊重し国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献する主体性ある日本人を育成すること

- ・ 道徳性の育成に資する体験活動として集団宿泊活動を追加するとともに、特に児童が基本的な生活習慣、社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断することなどを重視する。

##### ● 体育・健康に関する指導

- ・ 「学校における食育の推進」「安全に関する指導」を追加
- ・ 体育科の時間はもとより、家庭科、特別活動などにおいてもそれぞれの特質に応じて適切に行うよう努めること

#### 2 内容等の取扱いに関する共通事項

- ・ 第5・6学年に外国語活動を新設したことに伴い、関連する規定に外国語活動を追加した。

### 3 授業時数等の取扱い

- ・年間授業週数は、35週以上(第1学年は34週)にわたって行うことが標準。
- ・必要がある場合は、特定の学期又は期間に行うことが可能

夏季、冬季、学年末等の休業日の期間に授業日を設定する場合も含まれることを明示

- ・地域や学校及び児童の実態、各教科等や学習活動の特質等に応じて、創意工夫を生かした時間割を弾力的に編成できることを示した。
- ・総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、相当する学校行事の実施に替えることが可能

### 4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項

#### (ア) 児童の言語活動の充実

- ・基礎的・基本的な知識・技能の活用を図る学習活動の重視
- ・言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、言語活動を充実

児童の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ

#### (イ) 見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動の重視

- ・児童が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるように工夫すること

#### (ウ) 個に応じた指導の充実

- ・学校や児童の実態に応じ、個別指導やグループ別指導、繰り返し指導、習熟の程度に応じた指導、興味・関心等に応じた課題学習、補充的な学習や発展的な学習を取り入れた指導など、指導方法や指導体制を工夫改善すること

#### (エ) 障害のある児童の指導

- ・特別支援学校等の助言又は援助を活用しつつ、個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行い、交流及び共同学習の機会を設けること

#### (オ) 情報教育の充実

- ・コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段に慣れ親しみ、基本的な操作や情報モラルを身に付け、適切に活用できるように情報教育の充実を図ること
- ・視聴覚教材や教育機器などの教材・教具の適切な活用を図ること

#### (カ) 家庭や地域との連携

- ・地域や学校の実態等に応じ、家庭や地域の人々の協力を得るなど家庭や地域社会との連携を深めること
- ・小学校間、幼稚園や保育所、中学校及び特別支援学校などとの間の連携や交流を図ること

# 小学校 国語

## 1 「目標」

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

### ここがポイント！

- (1) 人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする「伝え合う力」を高めること
- (2) 論理的な思考力や想像力及び言語感覚を養うとともに、我が国の言語文化に親しんだり、国語の特質を理解したりしながら、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てること

## 2 「内容」

○言語活動の充実と学習の系統性の重視

A 話すこと・聞くこと

B 書くこと

C 読むこと

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

(1) 3領域の内容構成

A話すこと・聞くこと	B書くこと	C読むこと
内容(1) ○話題設定や取材に関する指導事項 ○話すことに関する指導事項 ○聞くことに関する指導事項 ○話し合うことに関する指導事項 内容(2) ○言語活動例	内容(1) ○課題設定や取材に関する指導事項 ○構成に関する指導事項 ○記述に関する指導事項 ○推敲に関する指導事項 ○交流に関する指導事項 内容(2) ○言語活動例	内容(1) ○音読に関する指導事項 ○効果的な読み方に関する指導事項 ○説明的な文章の解釈に関する指導事項 ○文学的な文章の解釈に関する指導事項 ○自分の考えの形成及び交流に関する指導事項 ○目的に応じた読書に関する指導事項 内容(2) ○言語活動例

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の内容構成

ア伝統的な言語文化に関する事項	イ言葉の特徴やきまりに関する事項	ウ文字に関する事項	書写に関する事項
<b>教材例</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>○低学年…昔話や神話・伝承などの本や文章</li> <li>○中学年…易しい文語調の短歌や俳句、ことわざや慣用語、故事成語</li> <li>○高学年…親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章、古典の解説</li> </ul>			

### ここがポイント

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」及び「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に再構成した。
- 内容の(2)に言語活動例を位置付けた。

## 3 「指導計画の作成と内容の取扱い」における留意事項

(1) 指導計画作成上の留意点

年間配当時数に留意するとともに、「読むこと」の指導では、読書意欲を高め、読書指導などと関連を図り、学校図書館の利用において本や資料を選ぶための指導を行う。

(2) 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の取扱い

伝統的な言語文化に関する指導を各学年で行い、古典に親しめるようにする。

### ここがポイント！

- 言語活動例を通して、指導事項を指導すること
- 内容の指導については、前後の学年段階を考慮して弾力的に指導できるようにすること
- それぞれの領域を相互に関連させながら指導し、指導の効果を高めること
- 学校図書館を計画的に利用するなど、日常的に読書に親しむことができるように読書活動を充実させること

## 4 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業改善

(1) 国語科の授業における「言語活動」を通して指導事項を指導することの徹底

### 【指導事項について】

内容(1)に示された内容から、本時で指導する指導事項を明らかにして、授業に臨む。

### 【言語活動について】

内容(2)に示された例示をもとに、記録、説明、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を設定する。

(2) 言語活動を通じた指導に当たっての留意点

- ① 学習指導要領に例示された言語活動をもとに、どのような単元を構成するかについては、学校や児童の実態を配慮する。
- ② 自ら課題を見つけ、解決するための方法を練り、実践したことの結果について、振り返ったり評価したりする場を設ける。

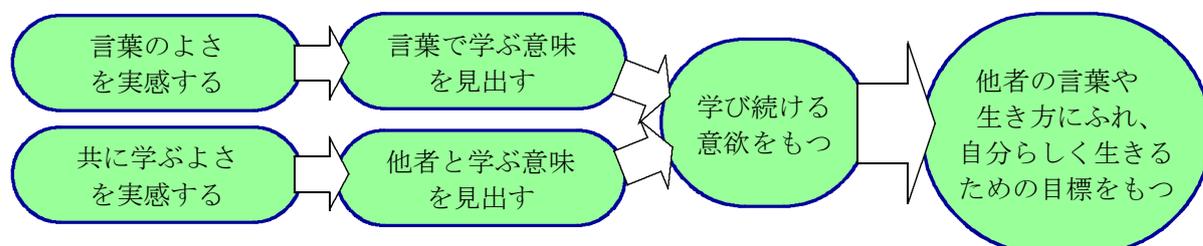
### ここがポイント！

学校や児童の実態に応じて、様々な言語活動を工夫し、その充実を図ることにより、基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けていく。

## 5 3つの基軸の視点による授業改善

(1) 「キャリア教育」の視点から

学びの過程を振り返る活動を通して、「言葉のよさ」や「他者と共に学ぶよさ」を実感できるようにする。



(2) 「コミュニケーション能力を育む教育」の視点から

自分の考えをもつことのできる課題設定や自分の考えと他者の考えを比較・検討する場の設定を行い、児童が自他の考えを尊重できるようにする。そのために、学習活動における「思考・判断・表現」を丁寧に見取るとともに、交流することのよさを実感できるようにする。

(3) 「地域や伝統、文化を踏まえた教育」の視点から

山口県ゆかりの資料を扱い、言語活動を通して地域や伝統・文化に触れることで、山口県の歴史の中で創造・継承されてきた言語文化に親しむことができるようにする。

例 郷土の民話 郷土の詩人 など

### ここがポイント！

- 山口県の言語文化や人の生き方などにふれ、郷土に対する関心を高めるとともに、郷土を尊重する態度を育てる。
- 他者と言葉で伝え合う場を積極的に設け、日常生活に必要な国語の能力の基礎を身に付けることができるようにする。

## 6 3つの基軸の視点による展開例

### ◇コミュニケーション能力を育む教育の展開例

#### ここがポイント!

- \* 「伝え合う力を高める」とは、人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり理解したりする力を高めることであると、小学校学習指導要領解説国語編に記されています。したがって、「伝え合う力を高める」ためには、相手や目的、場の状況などを明確にした交流活動を組織することが必要だと考えられます。
- \* 国語科では、適切な言語活動を通して指導事項の定着を図ります。特に、言語活動を通して思考力・判断力・表現力を育成することが、他教科等に生きて働く言葉の力の獲得につながっていきます。そこで、自分の表現を友達と交流したり、交流を通して自分の表現を見直したりする学習活動の設定が重要となります。

1 単元 「連句」で楽しもう～短歌と俳句～ 第5学年（「書くこと」領域）

#### 2 指導の立場

互いの表現を紹介し合い、表現に対する感想や意見を交流したり、表現を再構成したりすることで、コミュニケーションを通じた「表現の新たな楽しみ方」を見出すことができると考えられる。そこで、本単元では複数人が共同で句を作成する「連句」を題材にする。ここでは、季語を入れて前者が作った五・七・五の発句に、次の人が七・七の脇句を作るという活動を繰り返す従来の「連句」に、小学生向けのローカルルールを適用する。

連句は、次のようなルールで実施する。

- ★発句（最初の五・七・五）には必ず季語を入れよう
- ★脇句（次の七・七）は、発句と季節を変えないようにしよう
- ★挙句（最後の七・七）は、明るく終わることをめざそう
- ★第三句（五・七・五）からは、「意外性」のある展開にしよう
- ★「心のふるえ」を「五感」で表し、「対比」や「オノマトペ」などの技を生かそう
- ★全員が句をつくり、よい言葉を選ぼう（「沈黙5分→相談5分」を繰り返す）
- ★どうしても思いつかばない時は、パスを使い、次の句を考えよう

#### 3 目標

- (1) 短歌や俳句を進んで作ったり、日本古来の優れた短歌や俳句をよんだりしようとする態度を育てる。
- (2) 季節の変化、自分や周りの人の気持ちの変化に目をつけて想像を膨らませながら、発句や脇句に表現できるようにする。
- (3) 「座」の中で自分が作った言葉が適切であるかどうかを吟味できるようにする。

#### 4 授業の流れ（総時数 7時間）

第一次 短歌をつくろう（2時間）

- 提示した短歌の七・七にあたる言葉を想像し、表現する。
- 短歌づくりのルールを知り、短歌をつくる。

第二次 俳句をつくろう（2時間）

- 提示した俳句を読む。
- 季語をもとにしてつくったイメージマップから、俳句をつくる。

第三次 連句で楽しもう（3時間）

- 連句のルールを知り、教師のつくった発句に脇句をつける。
- 座で第三句、第四句・・・をつくる（本時）
- 座で連句をつくり、品評会をする。

5 主 眼

自分の句と友達の句の組み合わせによる新たなる発見を通して、想像したことを表現するの  
にふさわしい言葉の吟味を行い、連句を創作することができる。

6 本 時 案

学習活動・内容	教師の働きかけ
<p>1 教師が提示した発句をもとにして作った脇句を紹介し合う。</p> <p style="background-color: #e0e0e0; padding: 5px;">赤とんぼフラフラ音頭ダンシング（発句） 木々にぶつかりたんこぶできる（脇句）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・季語や字数などのきまり</li> <li>・表現技法（リズム、オノマトペ）</li> <li>・座のルール確認</li> </ul> <p>2 座を開き、ルールにしたがって連句をつくる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">コミュニケーション能力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・三句の意外性</li> <li>・言葉の吟味</li> <li>・五感</li> <li>・対比</li> <li>・オノマトペ</li> <li>・言葉のもつイメージ</li> </ul> <p>3 友達と交流し合ったことを振り返り、感想を発表し合う。</p> <p>○季語をもっと知りたいな</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の言葉のよさ</li> <li>・言葉を選んだ根拠</li> </ul>	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">コミュニケーション能力</p> <p style="background-color: #ffe0b2; padding: 10px;">5～6人程度で座を構成し、ルールを確認するとともに、本時のゴールイメージをもつことができるようにします。その際に、友達の表現と自分の表現を比較しながら、それぞれのよさや違いを受け入れることの大切さを全員で確認しておくようにします。</p> <p>○前時までに出てきた効果的な技法や表現等を模造紙に書いて掲示し、獲得してきた知識や技能の活用を促す。</p> <p style="background-color: #ffe0b2; padding: 10px;">他のグループのよさを共有化する中で、季語や字数、表現技法などの学習内容の定着が図れるように、学習内容を適切に板書するなど目に見えるようにします。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">授業改善の視点</p> <p>○意外性を表す言葉や対比、オノマトペなどの技法を「表現のよさ」として意識させ、表現を吟味する観点とする。</p> <p>○座においてその句が採用された根拠を問うことにより、思考・判断が適切になされているかどうかを評価する。</p> <p>○自分一人で句をつくる時と、座で連句をつくる時の違いを問う。</p> <p>○句のキーワードに着目させることにより自他の表現のよさや違いに気付かせるとともに、気付いたことを自分の言葉で発表したり書いたりする場を設ける。</p>

■作品例

赤とんぼフラフラ音頭ダンシング 木々にぶつかりたんこぶできる  
 秋の風すすきゆらゆらほがゆれる 空を見上げる名月まっ赤  
 冬が来たたき火をしても寒いけど 話をすれば温かいかな

## 学習評価の在り方と指導要録の改善について

## 小学校 国 語

## 1 評価の観点

## (1) 教科の目標

## 【教科の目標】

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

## (2) 評価の観点

学力の3要素	評価の観点(新)	「国語」の観点
①基礎的・基本的な知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度	○関心・意欲・態度 ○思考・判断・表現 ○技能 ○知識・理解	○国語への関心・意欲・態度 ○話す・聞く能力 ○書く能力 ○読む能力 ○言語についての知識・理解・技能

## 2 評価の観点及びその趣旨

新

※下線は変更点

観 点	趣 旨
国語への関心・意欲・態度	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。
話す・聞く能力	相手や目的、 <u>意図</u> に応じ、話したり聞いたり話し合ったりし、 <u>自分の考えを明確にしている</u> 。
書く能力	相手や目的、 <u>意図</u> に応じ、文章を書き、 <u>自分の考えを明確にしている</u> 。
読む能力	目的に応じ、 <u>内容をとらえながら</u> 本や文章を読み、 <u>自分の考えを明確にしている</u> 。
言語についての知識・理解・技能	<u>伝統的な言語文化に触れたり、言葉の特徴やきまり、文字の使い方などについて理解し使ったりするとともに、文字を正しく整えて書いている</u> 。

## 3 内容のまとめり

国語科では、学習指導要領の内容の「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」を内容のまとめりとして、これらごとに評価規準を作成した。

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕については、「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」の各内容のまとめりの中に関連する事項を含めた。

## 4 内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項及び評価規準の設定例

◇「内容のまとめりごとの評価規準に盛り込むべき事項」については、小学校学習指導要領・国語の「2 内容」に示す「A 話すこと・聞くこと」、「B 書くこと」、「C 読むこと」の(1)の指導事項及び〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕に示す事項に基づき作成している。また、「評価規準の設定例」は、この指導事項等に「2 内容」(2)に示す言語活動例を組み合わせることを基本として例示したものである。

## 5 評価規準設定例の示し方のポイント

### ポイント1：言語活動ごとに「設定例」を例示

学習指導要領・国語においては、言語活動を通して指導事項を指導することを求めている。言語活動ごとに設定例をまとめて示すことにより、各学校において単元の評価規準を作成する際に、どの設定例を参考にすればよいのかを分かりやすくしている。

国語への 関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
ア 「想像したことを文章に書く言語活動」を通じた指導		
<ul style="list-style-type: none"> <li>想像したことを基にして、物語を書いたり、書き換えたり、続きを書いたりしようとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像したことを手掛かりにして、場面や登場人物を決めている。(ア)</li> <li>絵を見て、想像を膨らませながら、事柄の順序に沿って話の筋を考えている。(イ)</li> <li>場面の様子がよく分かるように人物の行動や会話のつながりを考えて書いている。(ウ)</li> <li>自分や友達を書いた物語のおもしろいところを見付けながら読んでいる。(オ)</li> <li>友達を書いた物語を読んで、一番おもしろかったところを伝えている。(カ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会話文に用いるなど、かぎ(「」)の使い方を理解し、自分が書く文章の中で使っている。(イ(オ))</li> <li>平仮名や片仮名を正しく書いている。(ウ(ア))</li> <li>擬音語、外国の地名や人名、外来語など、片仮名で書く語の種類を理解し、文や文章の中で使っている。(ウ(ア))</li> </ul>

### ポイント2

国語科が対象とする学習内容に関心をもち、自ら課題に取り組もうとする意欲や態度を具体的に記述

### ポイント3

各学校における単元の評価規準設定の参考となるよう、より具体的に例示

- 学習指導要領に示す言語活動例のまとまりごとに、学習の過程がイメージできるように配列して示している。
- 学習指導要領の指導事項との対応を示すため、よりどころとなる指導事項等の記号を( )内に示した。
- 設定例は、できるだけ多様な指導事項を取り上げて例示している。各学校において単元の評価規準を設定する際は児童の実態や年間指導計画等の見通しのもとに重点化して取り上げる。
- 評価規準の設定例は、内容のまとまりごとに示している。領域を複合させて1つの単元を構成する場合は、複数の内容のまとまりに示された設定例を組み合わせて、単元の評価規準を4～5つの観点で設定することも考えられる。

### ポイント4

〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の学習状況をより具体的に評価できるよう例示

- 当該の言語活動と比較的関連付けやすいと考えられるものをまとめて例示しているが、実際の指導に当たっては、当該単元で取り上げて指導する事項に応じ、取り上げる題材や教材を踏まえて評価規準を設定することとなる。その際は、他の言語活動に例示の設定例も参考にする。
- 〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕を特に取り上げて指導する場合、「国語への関心・意欲・態度」と「言語についての知識・理解・技能」の2観点のみを単元の評価規準として設定する。
- (2)書写に関する事項については、「書くこと」にまとめて示す。言語活動と関連付けて示したもの以外は、各学年の末尾にまとめて示す。

# 小学校 社会

## 1 「目標」

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

### ここがポイント！

- (1) 地域社会や国土について理解し、国際社会で主体的に生きるための知識・技能を身に付けるようにする。
- (2) 歴史や文化を大切にし、よりよい社会づくりに参画する資質や能力の基礎を育てる。

## 2 「内容」

(1) 第3学年及び第4学年（地域社会に関する学習）	
ア 身近な地域や市の地形、土地利用、公共施設などの様子	「古くから残る建造物」「方位や主な地図記号」を付加
イ 地域の生産や販売に携わっている人々の動き	『生産』で農家か工場を選択、『販売』で商店を学習
ウ 地域の人々の健康な生活や良好な生活環境を守るための諸活動	「良好な生活環境」を付加
エ 地域の人々の安全を守るための諸活動	「地域の人々の協力」を付加
オ 地域の古い道具、文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の具体的事例	「地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事」と改訂
カ 県の地形や産業、県内の特色ある地域	「我が国における自分たちの県の地理的位置」「47都道府県の名称と位置」を付加
(2) 第5学年（我が国の国土と産業に関する学習）	
ア 我が国の国土の様子と国民生活との関連	「地球儀」、「世界の主な大陸と海洋」、「主な国の名称と位置」、「自然災害の防止」を付加
イ 我が国の農業や水産業（食料生産）の様子と国民生活との関連	「価格や費用」を付加
ウ 我が国の工業の様子と国民生活との関連	「価格や費用」を付加
エ 我が国の情報産業などの様子と国民生活との関連	「我が国の情報産業や情報化した社会の様子」を付加
(3) 第6学年（我が国の歴史、政治及び国際理解に関する学習の改善）	
ア 我が国の歴史上の主な事象	伝統や文化に関する内容を充実（縄文時代、文化遺産の学習を付加）
イ 我が国の政治の働き、日本国憲法の考え方	「国会と内閣と裁判所の三権相互の関連、国民の司法参加」を付加
ウ 我が国とつながりの深い国の人々の生活の様子、国際社会における我が国の役割	「地球儀の活用」を付加

### ここがポイント！

- (1) 学習や生活の基盤となる知識についての学習（47都道府県・大陸と海洋・主な国の名称と位置）を充実
- (2) よりよい社会の形成への参画に関わる学習（環境や防災、情報化、法や経済）を充実

## 3 「指導計画の作成と内容の取扱い」における留意事項

- (1) 観察や調査・見学などの体験的な活動、表現活動の一層の充実を図る。
- (2) 博物館や郷土資料館等を活用し、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を取り入れる。
- (3) 学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して、資料の収集・活用・整理などを行う。第4学年以降は、教科用図書「地図」を活用する。
- (4) 道徳の時間などとの関連を考慮し、社会科の特質に応じて適切な指導をする。

## 4 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業改善

### 言語活動の充実による授業改善

<p><b>【第3・4学年】</b>                  調べたことを記録し、観点を決めてまとめ、そこから考えられることを相手にもわかるように表現します。                  そのためのノート指導、時間の確保、場の設定を行うことが大切です。</p>	<p><b>【第5学年】</b>                  調べたことや、社会的事象の意味について、意見や考えの根拠を図や文章などで示して説明することが大切です。</p>	<p><b>【第6学年】</b>                  視野を広げて、多様な意見や考えが出されるような場面を設定し、根拠や解釈を示しながら、図や文章などで表現し説明することが大切です。</p>
--	---	--

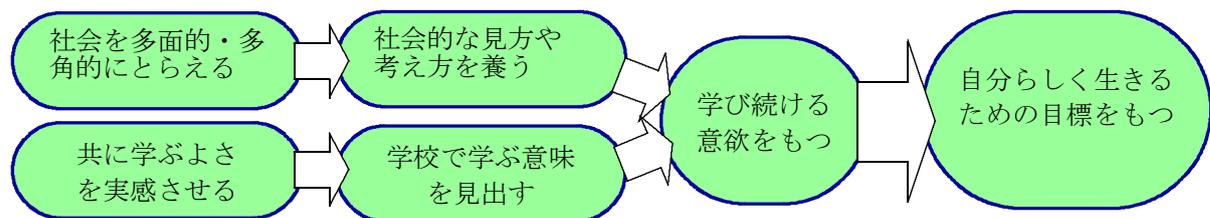
### ここがポイント!

- ・全ての学年で、「調べたこと」や「考えたこと」を表現する力を育てること
- ・言葉だけでなく、図などを使った効果的な表現や説明を重視すること

## 5 3つの基軸の視点による授業改善

### (1)「キャリア教育」の視点から

学ぶ過程を振り返る活動を通して、「社会的な見方や考え方」を養い「共に学ぶよさ」を実感できるようにする。



### (2)「コミュニケーション能力を育む教育」の視点から

以下の言語活動を充実

- ①問題解決的な学習
- ②必要な情報を比較・関連付け・総合しながら再構成する学習
- ③考えたことを自分の言葉でまとめる学習
- ④伝え合うことによりお互いの考えを深めていく学習

### ここがポイント!

これまでの経験を思い起こしたり、異なる立場の見方をもとに、自分の思いや考えを伝え合い、それらを共有したり質的に高めたりすることが大切である。

知的なコミュニケーションは、「表現すること」によって高められ、また、相互にかかわりあうことが、学習を充実させることにつながる。

### (3)「地域や伝統、文化を踏まえた教育」の視点から

- ・地域における社会的事象を観察、調査するとともに、地図や資料を効果的に活用し、地域社会の事象の特色や相互の関連などについて考え、調べたことや考えたことを表現する力を育てる。
- ・地域の人々が受け継いできた文化財や年中行事、地域の発展に尽くした先人の働きを調べる活動を通して、受け継がれてきた伝統や文化への関心を高める。

## 6 3つの基軸の視点による展開例

## ◇キャリア教育の展開例

## ここがポイント！

\* 様々な体験等を通じて自分がしたいことを見付け、継続的に努力して自分ができることを増やし、社会の一員として自分の役割を果たそうとする意欲や能力を高めることが大切です。

1 題材 スーパーマーケットの見学計画 3・4年(2)ア生産や販売に関する仕事

2 主眼

スーパーマーケットに多くのお客が来ることに注目し、見学やインタビューの内容を話し合う活動を通して、働く人たちが消費者の信頼を得て売上げを高めようと工夫していることを考えることができる。

3 学習過程

学習内容・学習活動	指導上の留意点
<p>1 家の人がよく買い物に行く店を調べた集計結果から課題を意識する。</p> <p>2 学習課題を確認する。</p> <div data-bbox="188 869 758 981" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>多くのお客に来てもらうために、スーパーマーケットではたらく人は、どんなくふうをしているのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・売り場のどこに工夫が見られるかを予想し、個人で付箋に記入する。</li> <li>・付箋を店の見取り図に貼って、場所ごとに整理する。</li> <li>・生鮮食品の鮮度管理</li> <li>・食品、一般雑貨の品揃え</li> <li>・レジ、カウンターのサービス</li> <li>・バックヤードのシステム</li> <li>・リサイクルコーナー</li> <li>・駐車場のシステム</li> </ul> <p>3 店の人への質問事項を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループごとに場所を割り当て、店の人への質問を付箋に記入し、店の見取り図に貼って整理する。</li> <li>・働く人たちの仕事と工夫</li> <li>・売り場での商品の並べ方</li> <li>・値段の付け方</li> <li>・宣伝の仕方</li> <li>・品質の管理</li> <li>・商品の仕入れ先</li> <li>・地域貢献やサービス</li> </ul> <p>4 見学ポイントとインタビュー内容を見学メモにまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お客の思いや願いと、店の人の工夫とが一致している内容を見つける。</li> </ul>	<p>○家の人や学級での買い物に関する聞き取りから、近所の小売店、コンビニエンスストア、デパート、移動販売などの中で、スーパーマーケットに行く回数が多いことに注目する。</p> <p>○多くのお客に来てもらうための工夫を調べるため、見学ポイントや店の人へのインタビューの内容を話し合って決めることを確認する。</p> <p>○日頃買い物客として行ったときの体験を生かしながら、販売する人の工夫が見られる場所を予想する。</p> <p>○最初は個人で予想し、それをグループで話し合うことで、学習を広げ、深める。</p> <div data-bbox="1173 1149 1396 1193" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>キャリア教育</p> </div> <p>これまでの体験を生かしながら、自分ができること、したいこと、社会が求めていることを、実地に調べたり、人に聞いたりすることは大きな経験になります。</p> <p>○観察をもとにした調査やインタビューによって課題の解決を図る。</p> <p>○販売の仕事について、商品の品質管理、売り場での並べ方や値段の付け方、宣伝の仕方などに見られる仕事の工夫を取り上げる。</p> <div data-bbox="1045 1585 1396 1630" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>コミュニケーション能力</p> </div> <p>インタビューの際、相手の話をきちんと「聞く」、課題意識をもって「聴く」自分の体験や知識をもとに疑問を見つけて「訊く」の3段階を心がけることが大切です。</p> <p>○商品の品質や価格等を考え、消費者の工夫と、売上げを高める販売者の工夫の結び付きをまとめる。</p> <p>○仕事のじゃまをしない、商品にさわらない、挨拶とお礼などのマナーを指導する。</p>

## ◇コミュニケーション能力を育む教育の展開例

### ここがポイント！

- \* 言語活動を充実するためには、作業的・体験的学習や問題解決的学習を充実させ、学習や生活の基盤となる知識・技能を習得するとともに、観察・調査や、資料から読み取った情報を的確に記録し、比較・関連付け・総合しながら再構成する学習を進めます。
- \* コミュニケーション能力を育むためには、児童が考えたことを自分の言葉でまとめて伝え合い、お互いの考えを深める学習を充実することが大切です。

- 1 題材** 縄文と弥生の暮らし 第6学年(1)ア狩猟・採集や農耕の生活
- 2 主眼** 縄文時代と弥生時代のむらの想像図を比べ、生活のちがいについて話し合う活動を通して、農耕が始まったころの人々の生活や社会の変化の様子が分かる。
- 3 学習過程**

学習内容・学習活動			指導上の留意点
1	縄文と弥生のむらを比べて、弥生時代に新たに登場したのを見付ける。		○前時に学習した縄文時代と比較し、弥生時代に新たに登場したのを見付けるよう促す。 ○弥生時代の暮らしの変化を、衣食住や道具に着目してグループで分担し、黒板にまとめることを確認する。
2	衣食住や道具の変化を見付け、学習課題を確認する。		
	米づくりによって世の中はどのように変わっていったのだろうか。		○教科書の想像図を見て、村人の人数や持ち運んでいる物、並べられている物資、その数量や色、種類に注目し、村の暮らしの変化について見付けるよう促す。 <b>コミュニケーション能力</b> 班で小ボードにまとめ黒板に貼るなど、児童の意見を大切にしながら、全体に発表できる仕方を工夫するとよいでしょう。
	縄文時代	弥生時代に登場	
衣	植物繊維・毛皮	貫頭衣、袈裟衣絹織物	
食	貝、魚、獣、木の实	米	
住	竪穴住居	高床倉庫、物見櫓、堀と柵	
道具	縄文土器、弓矢、釣り針	弥生土器、くわ、石包丁	
3	米づくりが始まって堀や柵が必要になった理由を考える。 ・生活の安定化（冬の食料の確保） ・人口の増大 ・土地、水、道具をめぐる争い ・指導者と身分の発生 ・むらからくにへ		○堀や柵、物見櫓などの防衛施設に着目して、米づくりがもたらした社会の変化について予想する。 ○これまでの学習と教科書の資料を関連づけ、キーワードや図を使って米づくりと防衛施設の関係を説明するよう促す。 ○児童の発言について、関連する遺跡や遺物、文献資料を示しながら裏付ける。
4	弥生のむらの子どもになって、弥生時代の暮らしの変化をキーワードを使って短文や図にまとめる。		○米づくり、人口、くになどのキーワードを使って、短い文章や図にまとめる。 調べたことや考えたことを、根拠や解釈を示しながら図や文章などで表現し説明できるようにすることが大切です。

言語活動の充実

学習評価の在り方と指導要録の改善について

小学校 社 会

1 評価の観点

(1) 教科の目標

※下線は変更点

【教科の目標】

社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。

(2) 学力の3要素と評価の観点

学力の3要素	評価の観点（新）	「社会」の観点
①基礎的・基本的な知識及び技能	○関心・意欲・態度	○社会的事象への関心・意欲・態度
②思考力、判断力、表現力等	○思考・判断・表現	○社会的な思考・判断・表現
③主体的に学習に取り組む態度	○技能	○観察・資料活用の技能
	○知識・理解	○社会的事象についての知識・理解

◆評価の観点改善のポイント

- ・「関心・意欲・態度」「知識・理解」は、これまでと同様であり、その趣旨に変更はない。
- ・「思考・判断・表現」の「表現」は、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、社会科の内容に即して考えたり、判断したことを、説明・論述・討論などの言語活動等を通じて評価する。
- ・「技能」は、これまで「技能・表現」が対象としていた内容を引き継ぐ。社会科では、資料から情報を収集・選択して読み取る「技能」と、それらを用いて図表や作品などにまとめる「表現」とをまとめて「技能」の観点で評価する。

2 評価の観点及びその趣旨

**新**

※下線は変更点

観 点	趣 旨
社会的事象への関心・意欲・態度	社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べ、社会の一員として自覚をもってよりよい社会を考えようとする。
社会的な思考・判断・表現	社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について <u>思考・判断したことを適切に表現している。</u>
観察・資料活用の技能	社会的事象を的確に観察、調査したり、各種の資料を効果的に活用したりして、 <u>必要な情報をまとめている。</u>
社会的事象についての知識・理解	社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を具体的に理解している。

### 3 各観点の趣旨と留意事項

#### ○社会的事象への関心・意欲・態度

- ・これまでと同様、社会的事象への関心、主体的・意欲的な学習活動、学んだ成果を社会生活等に生かそうとする態度を身につけているかどうかを評価
- ・授業の中で評価すべき「学んだ成果を社会生活等に生かそうとする態度」は、「行動や実践」ではなく、「考えようとする」ことである点について明確化

#### ○社会的な思考・判断・表現

- ・社会的事象について思考・判断したことを、言語活動によって表出した内容で評価
- ・言語活動を中心とした表現活動等を通して評価することに留意
- ・児童のワークシートの記述からも「思考・判断」の状況の評価

#### ○観察・資料活用の技能

- ・社会科の技能は、「観察」と「資料活用」であることを明示
- ・これまで評価してきた「作品のできばえ」「表現方法のわかりやすさ」などは、今後も「必要な情報をまとめる力」として「資料活用の技能」で評価

#### ○社会的事象についての知識・理解

- ・これまで同様、社会的事象の様子や働き、特色及び相互の関連を理解しているかを評価

### 4 評価規準作成のための参考資料のポイント

- 内容のまとめりとして、学習指導要領の内容の(1)、(2)・・・の各大項目ごとに評価規準を作成している。

教科目標



内容のまとめり（大項目）ごとの評価規準に盛り込むべき事項



大単元ごとの評価規準の設定例



具体的な学習活動による評価規準の設定

※各学校で、取り上げる題材や解決する問題などに応じ具体的な評価規準を作成する。

- 評価規準表は、学習指導要領が求める学力を4観点で整理したマトリクス図と考えることができる。4観点の文末表現は、各学年共通で、下表のように整理することができる。

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
～に関心を持ち、それを意欲的に調べ、それらの特色を考えようとしている。	～について思考・判断したことを言語などで適切に表現している。	～の様子を的確に観察、調査したり、具体的資料を活用したりして必要な情報を集め、読み取ったりまとめている。	～ことを理解している。

- ・学校で評価規準を作成する際、学習指導要領及び解説に示されている具体的な学習対象や教材について、児童が上表の状況に達しているかどうかを評価する。
- ・4観点ごとに児童全員の達成状況が記録できる場面について、最もふさわしい学習活動を単元の中からあらかじめ選び出し、効率的な評価をする。

# 小学校 算 数

## 1 「目標」

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

### ここがポイント！

- (1) 「算数的活動を通して」
- (2) 見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てること
- (3) 進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てること

## 2 「内容」

- 「A 数と計算」の領域
- 「B 量と測定」の領域
- 「C 図形」の領域
- 「D 数量関係」の領域

### 新たな改善事項

### ここがポイント！

学年間で内容の一部を重複させて、発達や学年の段階に応じた反復（スパイラル）による教育課程を編成できるように構成されている。

### ◎算数的活動とは

児童が、目的意識をもって主体的に取り組む（新たな性質や考え方を見いだそうとしたり、具体的な課題を解決しようとしたりする）算数にかかわりのある様々な活動

<p><b>【第1学年】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 具体物を数える活動</li> <li>イ 計算の意味や仕方を表す活動</li> <li>ウ 量の大きさを比べる活動</li> <li>エ 形を見付けたり、作ったりする活動</li> <li>オ 場面を式に表す活動</li> </ul>	指導要領に示された算数的活動の例（短縮して表現）	<p><b>【第4学年】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 計算の結果の見積りをし判断する活動</li> <li>イ 面積の求め方を考え説明する活動</li> <li>ウ 面積を実測する活動</li> <li>エ 平行四辺形などを敷き詰め、図形の性質を調べる活動</li> <li>オ 身の回りの数量の関係を調べる活動</li> </ul>
<p><b>【第2学年】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 整数が使われている場面を見付ける活動</li> <li>イ 乗法九九表からきまりを見付ける活動</li> <li>ウ 量の大きさの見当を付ける活動</li> <li>エ 図形をかいたり、作ったり、敷き詰めたりする活動</li> <li>オ 図や式に表し説明する活動</li> </ul>		<p><b>【第5学年】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 計算の仕方を考え説明する活動</li> <li>イ 面積の求め方を考え説明する活動</li> <li>ウ 合同な図形をかいたり、作ったりする活動</li> <li>エ 図形の性質を帰納的に説明したり、演繹的に説明したりする活動</li> <li>オ 目的に応じて表やグラフを選び活用する活動</li> </ul>
<p><b>【第3学年】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 計算の仕方を考え説明する活動</li> <li>イ 小数や分数の大きさを比べる活動</li> <li>ウ 単位の関係を調べる活動</li> <li>エ 正三角形などを作図する活動</li> <li>オ 資料を分類整理し表を用いて表す活動</li> </ul>		<p><b>【第6学年】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 計算の仕方を考え説明する活動</li> <li>イ 単位の関係を調べる活動</li> <li>ウ 縮図や拡大図、対称な図形を見付ける活動</li> <li>エ 比例の関係をを用いて問題を解決する活動</li> </ul>

### ここがポイント！

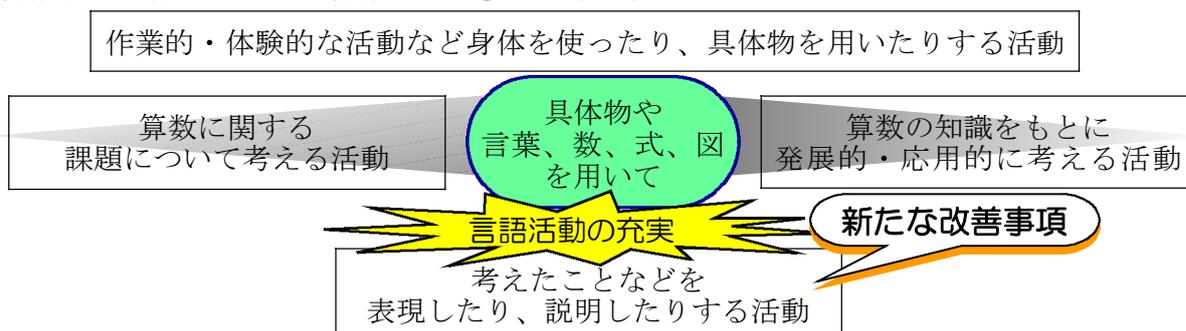
- ・例示してある算数的活動以外にも工夫し新たに設定して行うこと。
- ・教師の説明を一方向的に聞くだけの学習や、単なる計算練習を行うだけの学習などは算数的活動に含まれない。

## 3 「指導計画の作成と内容の取扱い」における留意事項

- (1) 数量や図形についての基礎的な能力の習熟や維持を図るため、適宜練習の機会を設けて計画的に指導する。
- (2) 道徳教育の目標に基づき、道徳の時間などとの関連を考慮する。
- (3) 必要な場面においてコンピュータなどを適切に活用する。

## 4 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業改善

### (1) 算数科の授業における「算数的活動」の一層の充実



### (2) 算数的活動によってめざす授業改善

- ・児童の活動を中心とした主体的なものとする。
- ・児童にとって「楽しい」「分かりやすい」「感動のある」ものとする。
- ・創造的、発展的なものとする。
- ・日常生活や自然現象と結び付いたものとする。
- ・他教科、総合的な学習の時間等と関連した活動を構想しやすいものとする。

授業改善の  
ポイント

### ここがポイント！

算数的活動には、様々な活動が含まれ得るものであり、作業的・体験的な活動など身体を使ったり、具体物を用いたりする活動を主とするものがあげられることが多いが、そうした活動に限られるものではない。算数に関する課題について考えたり、算数の知識をもとに発展的・応用的に考えたりする活動や、考えたことなどを表現したり説明したりする活動は、具体物などを用いた活動でないとしても算数的活動に含まれる。

## 5 3つの基軸の視点による授業改善

### (1) 「キャリア教育」の視点から

学ぶ過程を振り返る活動を通して、「算数のよさ」や「共に学ぶよさ」を実感する授業



### (2) 「コミュニケーション能力を育む教育」の視点から

互いに自分の思いや考えを表現し伝え合う学習活動から学びを深化・充実させる授業

- ①自らの意見（見方や考え方）をもつことのできる課題を設定
- ②各自の意見（見方や考え方）を出し合い、比較・検討する活動を設定
- ③他者の意見（見方や考え方）に対する支持的・受容的風土を醸成
- ④学習活動における「表現すること」や「かかわり合い」に対する形成的評価を実施

### ここがポイント！

知的なコミュニケーションは、「表現すること」によって支えられ、また、知的なコミュニケーションを通して表現の質が高められる。  
算数の授業で、表現されるものは、「見いだした事実」「考え方や解決方法」「事柄が成り立つ理由や判断の理由」等で、言葉による表現とともに、数、式、図、表、グラフといった数学的な表現の方法を用いることに特質がある。このような表現の方法について学ぶとともに、それらを活用する指導を工夫することが大切である。

### (3) 「地域や伝統、文化を踏まえた教育」の視点から

身近な事象を数理的に考察し表現する活動に対する関心・意欲を喚起する授業

例：県章や市章、町章等を使った線対称、点対称な図形の弁別（6年：対称な図形）

## 6 3つの基軸の視点による展開例

### ◇キャリア教育の展開例

#### ここがポイント！

\* 算数科におけるキャリア教育の視点として、「なぜ算数の勉強をしなくてはいけないのか」、「今の学習が将来どのように役立つのか」といったことについての発見や自覚を促すことによって、日頃の学習に対する姿勢の改善をめざし、新たな発見やより深い自覚に結び付けていくことが挙げられます。

そのためには、日常生活の中の身近な題材を用いて、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てることが大切です。

1 題 材 第3学年 表と棒グラフの活用

2 主 眼

資料を分類整理し、表やグラフを用いて表す活動を通して、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりすることができる。

3 学習過程（2時間）

学習内容・学習活動	指導上の留意点
1 既習事項を確認する。 ・身の回りの事象について、目的に応じた観点を設定し、数量を表に表す。 ・表をもとにしてグラフで表す。	○これまで学習した表や棒グラフについて、具体的な事例を示して確認する。
2 表やグラフで表すよさについて、発表する。	○表やグラフで表現することのよさを実感できるような事象の例を示すことで、グラフで表現することの必要を感じることができるよう配慮する。
3 班ごとにグラフで表現したい身の回りの事象を考える。 ・対象や調べる方法 ・分類する観点、グラフの表現方法	日常生活の中からもなるべく身近で児童が興味を抱くような事象を取り上げるよう支援することで、学習を身近なものとして認識し、算数のよさが実感できるようにしましょう。
4 次時までの課題の確認をする。 ・グラフで表現することを調べてくる。	○資料を集めるための役割分担を具体的に決めておくように指導する。
5 課題の確認をする。 ・集めた資料を確認する。	○集めた資料の中から、発表する内容を相談しながら資料を確認するよう指示をする。
6 班ごとに表やグラフを作成する。 ・グラフの目盛りの取り方や表現方法の工夫など	○グラフに表すことのよさをしっかりと表現できるグラフを作成するように支援する。
7 作成したグラフについて発表する。	発表する上での工夫や役割分担など、班ごとにお互いの意見をしっかりと話し合わせましょう。
8 活動の振り返りをする。 ・自己の振り返りと他の班の発表から学んだこと	グラフに表す上で工夫した点などを発表し、まとめるとともに、他の班の発表を聞き、それぞれの班の表現方法のよさに気付くことも、大切な言語活動です。

キャリア教育

コミュニケーション能力

言語活動の充実

## ◇コミュニケーション能力を育む教育の展開例

### ここがポイント！

- \* 言語活動の充実を図るためには、児童一人ひとりに言語表現させる活動を授業に位置付けることが大切です。まず、表現したくなる「思い」や「考え」をもたせる課題設定や学習活動が必要です。
- \* コミュニケーション能力を育むためには、児童が、自らの「思い」や「考え」を他の児童と比較検討する活動を授業に位置付けることが大切です。そこで展開される様々な活動を形成的に評価することが必要です。

1 題材 円周の長さ 第5学年 円周率

2 主眼

「曲線の長さ」が直接ものさしで測ることができないことを認識し、円周の長さを求める活動を通して、直径の長さと円周の長さの関係に着目することができる。

3 学習過程

学習内容・学習活動	指導上の留意点
<p>1 課題を把握する。</p> <p>もとになるカードの図形は「円」 次のカードは、これに似ているでしょうか？似ていないでしょうか？</p> <p>「似ている」 「似ていない」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・楕円</li> <li>・半円</li> <li>・半円から構成された図形</li> <li>・長方形</li> <li>・台形</li> <li>・正二十角形</li> <li>・正六十四角形</li> </ul>	<p>○ルールの確認をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「似ている」「似ていない」を選択するだけではなく、その根拠を考える。</li> <li>・各自の意見は指示があるまで声に出さないようにする。</li> </ul> <p>○選択に迷う図形として正六十四角形を提示し、直線（線分）と曲線の違いを浮き彫りにする。</p> <p>各自の意見をしっかりとめたあとで、他の児童の意見とのかかわりを大切にした発表の仕方を指導するとよいでしょう。</p>
<p>言語活動の充実</p>	
<p>2 直径10cmの円の周りの長さの測定方法について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・円を切り取り、その周りの長さを測る。</li> <li>・円を切り取り回転させて、その距離を測る。</li> <li>・円周にひもを合わせ、そのひもの長さを測る。</li> </ul> <p>3 直径10cm、20cm、30cmの3つの円の周りの長さを測る。 また、測った結果を見て気付くことはないか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直径と円の周りの長さの関係</li> </ul>	<p>○学級全体への発問とし、なるべく多くの意見を出させることによって、すべての児童が次の活動に取りかかることができるよう配慮する。</p> <p>○意見が出ない場合は、自分が準備した道具を用いて測る方法を考えるよう助言する。</p> <p>○3人グループをつくり、分担して活動することにより、すべての児童の活動が保証できるよう配慮する。</p>
<p>コミュニケーション能力</p>	<p>小グループでの活動を位置付け、コミュニケーションを図ることにより、算数の苦手な児童も取り組みやすくなるよう配慮しましょう。</p>
<p>4 本時の学習活動のまとめと振り返りをする。</p>	<p>○どのような方法でもよいので、3つの円の周りの長さを測定するよう指示する。</p> <p>○早く終わったグループには、結果を見て気付いたことについて話し合うよう指導する。</p> <p>○今日の活動の結果と気付いたことをまとめることで、次時の導入につなげる。</p>

学習評価の在り方と指導要録の改善について

小学校 算 数

1 評価の観点

(1) 教科の目標

※下線は変更点

【教科の目標】

算数的活動を通して、数量や図形についての基礎的・基本的な知識及び技能を身に付け、日常の事象について見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる。

(2) 学力の3要素と評価の観点

学力の3要素	評価の観点（新）	「算数」の観点
①基礎的・基本的な知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度	○関心・意欲・態度 ○思考・判断・表現 ○技能 ○知識・理解	○算数への関心・意欲・態度 ○数学的な考え方 ○数量や図形についての技能 ○数量や図形についての知識・理解

◆評価の観点改善のポイント

「表現・処理」の観点名を「技能」とし、「考え方」の観点名にも「表現」の言葉を記載しなかったのは、「技能」における「表現」と「考え方」における「表現」の混同を避けるためである。

すなわち、これまで「表現・処理」の観点で評価していた「表現」は、従来通り「技能」の観点において評価し、「考え方」の観点における「表現」の評価は、これまで「考え方」の観点で評価する際に、その評価の対象としていた思考・判断した結果を「表現」したものを対象とする。

2 評価の観点及びその趣旨

新

※下線は変更点

観 点	趣 旨
算数への関心・意欲・態度	数理的な事象に関心をもつとともに、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、進んで生活や学習に活用しようとする。
数学的な考え方	日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、そのことから考えを深めたりするなど、数学的な考え方の基礎を身に付けている。
数量や図形についての技能	数量や図形についての数学的な表現や処理にかかわる技能を身に付けている。
数量や図形についての知識・理解	数量や図形についての豊かな感覚をもち、それらの意味や性質などについて理解している。

3 各観点の趣旨と留意事項

留意事項として、1) 現行の観点の趣旨との比較、2) 算数科の目標との関連、3) 中学校との接続を意識した中学校数学科の観点の趣旨との比較、の3つの視点に着目することが肝要である。

○算数への関心・意欲・態度

- 算数科の学習内容や数理的な事象に関心をもち、算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気付き、自ら進んで生活や学習に活用したり、課題に取り組もうとしたりする資質や能力を児童が身に付けているかどうかを評価する。
- 「進んで生活や学習に活用しようとする」や「算数的活動の楽しさ」という観点の趣旨の表記の変更は、算数科の目標における「進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てる」や「算数的活動の楽しさ」という表記にあわせたものである。

- ・具体的な評価方法としては、授業における発言や行動等を観察するほか、ノートやワークシートの記述、発表といった学習活動を通して評価することが考えられる。

### ○数学的な考え方

- ・日常の事象を数理的にとらえ、見通しをもち筋道立てて考え表現したり、このことを基に考えを深めたりするなど、子どもが数学的な考え方の基礎を身に付けているかどうかを評価する。
- ・ただ単に「考え、表現する」だけで終わるのではなく、「関数の考え」や「集合の考え」、「帰納的、類推的、演繹的な考え」などの「数学的な考え」を用いて考えているかどうかを評価したい。
- ・例えば、第4学年の「長方形を組み合わせた図形の面積を求めるために式を立てる場面」では、立式の理由や言葉や図などを用いて説明したり、さらに、友達の説明と自分の考え方の共通点や相違点、それぞれの考え方のよさや特徴などを考え、よりよい方法を見いだしたり、方法を簡潔にまとめたりすることである。
- ・現行の「数学的な考え方」の評価においても、考えた内容を「表現」したものを評価していたのであって、その基本的な姿勢は変わっていない。ゆえに、観点の名称は変更していないが、言語活動を中心とした表現に係る活動等を通じて学習評価を行うことを明確に示すため、観点の趣旨に「表現し」を加えている。
- ・観点の趣旨から「算数的活動を通して」の表記を削除した理由は、算数的活動を通して評価するのは、すべての観点において重要であることが理由である。

### ○数量や図形についての技能

- ・算数科において習得すべき数学的な表現や処理にかかわる技能を児童が身に付けているかどうかを評価する。
- ・従前の「数量や図形についての表現・処理」における「表現」とは、算数科において式や図、グラフに表現することや、式で表されたことを計算・処理することを評価していたのであって、そのことは観点の名称が「技能」と変わっても同じであり、この観点で評価する。ただし、「思考・判断」したときの「表現」と区別するために、観点の趣旨において「数学的な表現や処理」と明記している。

### ○数量や図形についての知識・理解

- ・数量や図形についての豊かな感覚をもち、算数科において習得すべき数量や図形についての意味や性質等を児童が理解しているかどうかを評価する。
- ・特に、数量や図形についての「意味や性質（関係）」などについて評価を行うことが肝要である。（「技能」における「手続き的知識」ではなく、「知識・理解」では、「概念的知識」に着目したい。）

## 4 評価規準作成のための参考資料のポイント

□評価規準の構造と運用について

**教科目標** … 教科の指導を通して実現すべき目標【学習指導要領に明示】



**評価の観点及びその趣旨** … 教科目標の実現状況をとらえるための4観点の名称と趣旨



**各学年の観点の趣旨** … 評価の4観点の趣旨を各学年レベルで示したもの



**内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項** … 「内容のまとまり」を各領域として、それぞれ4観点について作成



**小单元ごとの評価規準の設定例** … 「評価規準に盛り込むべき事項」をより具体化  
各領域の単元を構成する小单元をまとまりとして、学習指導要領解説をもとに作成



**学習活動の具体の評価規準の設定** … 評価規準の設定例を、取り上げる題材や解決する問題など授業に即して具体化した評価規準【各学校で作成】

# 小学校 理科

## 1 「目標」

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

### ここがポイント！

- (1) 自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行うこと
- (2) 問題解決の能力や自然を愛する心情を育てること
- (3) 自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図ること

**問題解決の能力**・・・『下の学年の「問題解決の能力」は上の学年の基盤となる』

〔第3学年〕 差異点や共通点に気付いたり、比較したりする能力

〔第4学年〕 変化とその要因を関係付ける能力

〔第5学年〕 観察、実験などを計画的に行っていく条件制御の能力

〔第6学年〕 変化や働きについて、その要因や規則性、関係を推論する能力

**実感を伴った理解**

・具体的な体験を通じた理解 ・主体的な問題解決を通じた理解 ・実際の生活・自然体験を通じた理解

## 2 「内容」

### A 物質・エネルギー

児童が自らの予想や仮説を基にして、実験を計画・実施することによって成立する内容区分

### B 生命・地球

生物や地質、気象、天体の内容を対象として、存在の様子や状況などを観察することによって成立する内容区分

### ここがポイント！

「A 生物とその環境」「B 物質とエネルギー」「C 地球と宇宙」の3区分から、2区分になった。小・中・高を通じて、「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の4つの柱で内容構成。

◎追加される主な内容、移行される主な内容 (○○○は追加内容、○○○は移行内容)

A 物質・エネルギー		B 生命・地球	
エネルギー	粒 子	生 命	地 球
【第3学年】 風の働き、ゴムの働き 【第5学年】 振り子の運動 電流の働き、鉄心の磁化、極の変化、電磁石の強さ(小6) 【第6学年】 てこのつり合いと規則性(小5)、てこの利用 発電・蓄電、電気の変換 電気による発電 電気の利用	【第3学年】 形と重さ、体積と重さ 【第4学年】 氷になったときの体積増加	【第3学年】 身の回りの生物と環境とのかかわり 【第4学年】 骨と筋肉 骨と筋肉の働き 関節の働き 【第5学年】 卵の中の成長(必修へ) 水中の小さな生物 母体内の成長(必修へ) 【第6学年】 主な臓器の存在 植物の養分と水の通り道 食べ物による生物の関係	【第4学年】 天気による1日の気温の変化(小5) 【第5学年】 川の上流・下流と川原の石雲と天気の変化 【第6学年】 火山の噴火や地震による土地の変化(必修へ) 月の位置や形と太陽の位置 月の表面の様子

### ここがポイント！

- \* 「ものづくり」など科学的な体験や「野外観察、栽培・飼育」などの自然体験を地域や児童の状況に合わせて取り入れる。
- \* 道徳教育の全体計画との関連や指導内容及び時期等に配慮し、道徳と理科が相互に効果を高めるようにする。

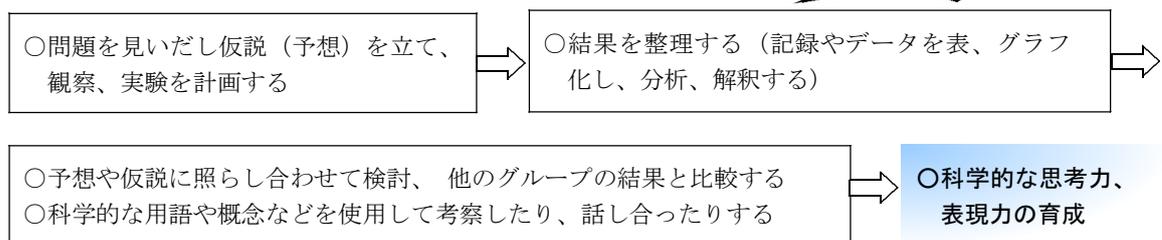
## 3 「指導計画の作成と内容の取扱い」における留意事項

- (1) 博物館や動物園、プラネタリウムなどの施設や設備を積極的に活用し、実感を伴った理解を図ること
- (2) 観察や実験は直接体験を基本とするが、学習内容に応じて適宜、コンピュータや視聴覚機器などを活用し、指導の充実を図ること
- (3) 主体的に問題解決的な活動をさせるとともに、**学習の成果と日常生活との関連**を図ること

## 4 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業改善

### (1) 理科の授業における「言語活動」の充実

<学習の流れ(例)>



言語活動の充実

#### ここがポイント!

- \* 科学的な用語は「言語活動」の基盤となることから正しく理解させる。
- \* 諸感覚を通じて感じ取ったことを多様な言葉で表現させる指導を継続的に行う。

### (2) 「言語活動」の指導に当たっての留意点

- ① クラスの人間関係づくりを土台として、グループ学習を行う。
- ② 仲間に頼りすぎないように、個人で考えさせた後に話し合い活動を行う。
- ③ 仮説(予想)、結果の表現の仕方、結果と考察の違い等、個別指導を繰り返し行う。

## 5 3つの基軸の視点による授業改善

### (1) 「キャリア教育」の視点から

学習方法と関連した4能力の育成 = 理科学習の意味の再構成

- ・ 協力しながら観察・実験(人間関係形成能力)・見通しをもって計画(将来設計能力)
- ・ 観察・実験からの情報収集(情報活用能力)・自ら課題を設定、追究(意思決定能力)

### (2) 「コミュニケーション能力を育む教育」の視点から

#### ① 授業において書くことの指導

- ・ 学習ノートを「先生の板書を写すためのもの」から「自分の考えを書くためのもの」にする。
- ・ 「結果」「考察」を文章にまとめさせる。学年に応じて科学定型文を示す。

#### ② 話し合い活動、発表の指導

- ・ 以前学習したこと、生活体験をもとに意見を組み立てる。
- ・ 学習ノートに書かれた結果と考察をもとにグループで話し合い、グループごとに発表する。
- ・ グラフや表で示しながら発表する機会を設定する。

#### ここがポイント!

理科の学習内容は児童の様々な生活経験とかかわりがあることが多い。自分の経験に基づいた考えを相手に示し、また相手の考えを聞くことで、お互いに高まり合うことができる。

### (3) 「地域や伝統、文化を踏まえた教育」の視点から

地域の自然に親しむ活動や体験的な活動を通じて自然環境を大切に、その保全に寄与しようとする態度を育成するようにする。

## 6 3つの基軸の視点による展開例

### ◇キャリア教育の展開例

#### ここがポイント！

理科の授業にはキャリア教育につながる学習活動が多くあり、こうした視点で授業をとらえ直すことや、キャリア教育で身に付けたい力について児童に説明することが大切です。例えば既習内容や生活体験を生かし、時間や実験器具等の与えられた条件を基に自分たちで実験計画を立てる、実験後は計画が順調に進んだかを振り返る、固定した仲間ばかりでなく似たような予想をした仲間と共に協力して実験に取り組むなどの学習活動により、将来設計能力や人間関係形成能力を育成することができます。

1 単元名 もののあたたまり方 (第4学年)

2 主眼

金属や水を熱したときの熱の伝わり方を調べる方法を考えて実験することを通して、金属は熱した部分から順に温まっていき、水は熱せられた部分が上に移動して全体が温まっていくことを理解することができる。

3 学習過程 (2時間)

学習内容・学習活動	指導上の留意点
1 生活を振り返り、本時の課題をつかむ。 ・風呂は沸かした湯の出口が下の方にあるのに、上の方が熱いこと ・ストーブは火の近くほど熱いこと	○日常生活の中で金属や水の温まり方について気付いたことを尋ね、課題意識をもつことができるようにする。
課題：金属と水では、温まり方が違うのだろうか。	
児童が課題をつかみ、追究していこうとする意欲をもたせるような働きかけや発問、実物の提示などをすることが大切です。児童の身近な体験や自然現象などを取り上げることで、理科の学習内容と実生活との関連を実感させたり、学習への意欲を高めたりすることにつながります。	
2 課題に対する予想を立てる。 ・風呂の体験から 「水は上の方からだんだん温まっていくのかな」 ・ストーブや鉄板の体験から 「金属は熱したところから熱い部分が広がっていくのではないかな」	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <b>授業改善の視点</b> </div> ○体験をもとにして、水や金属の温まり方を予想させるようにする。 ○似たような体験をしたことがある児童に挙手させるなどして、課題が自分の生活と関連が深いことを意識付ける。
3 実験の方法や必要なものを考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;"> <b>言語活動の充実</b> </div> 表現することにつまずいている児童には、「私は○○だと思います。理由は○○だからです。」 「○○という体験をしたことがあるので、○○ではないかと思います。」など、体験等の根拠に基づいた考えを表現する具体的な話型を示すことで発表がしやすくなります。
4 使うものを選び、実験装置を考える。 ・アルコールランプ ・三脚 ・金網 ・薄い鉄板 ・マッチ ・燃えがら入れ ・ピーカー ・棒温度計 ・ろう 「チョコレートも使えるかな」 「エビや肉は熱で色が変わるよ」	○温度の変化を目に見えるようにする方法を考えるよう助言する。 ○温度変化で形や色が変わる身近なものを活用することで、実験をより身近に感じることができるようにする。 ○実験に使う材料について児童の希望に添えるよう、考えられるものを事前に準備しておく。

キャリア教育

- ・固定された班での取組ばかりでなく、同じ内容を選んだ者同士のグループなどで協力して実験することで、人間関係を形成しようとする能力を培うことができます。
- ・今まで日常生活の中で体験したことや本単元で学習したことを生かし、時間、実験器具等の条件にも考慮させ、見通しをもって計画を立てさせることが大切です。

○グループごとに使うものを決め、実験装置を考えてノートに書くことで、スムーズに実験準備ができるようにする。

- 5 グループごとに実験を行う。
- ・計画に沿ってグループで実験する。

実験器具の使い方について、ルールを徹底させることが大切です。事故のほとんどは児童の不注意で起きています。

○協力して準備を進めるように助言する。  
○結果の予想を書かせ、実験の仕方とともに発表させることで、見通しがもてるようにする。

- 6 実験の結果を発表

授業改善の視点

○実験の前に注意事項を徹底する。アルコールランプやマッチ、鉄板や湯の扱いについては十分注意を促す。  
○各グループの実験の様子を見て回り、必要に応じて助言する。  
○実験経過や結果を記録するよう指示する。

実験経過や結果を、今まで学習した理科の用語やイメージ図を用いて適切に記録するなど、情報収集する力を身に付けさせることが大切です。

言語活動の充実

- ・鉄板の熱した部分から近いところからチョコレートが溶けたよ。
- ・ピーカーの上の方が先に温度が上がったよ。

○ノートの記録をもとに、まず経過や結果をグループで話し合い、確認できるようにする。  
○グループによって実験方法が違うので、実験方法と結果を発表させるようにする。

- 7 実験から分かったことを

キャリア教育

予想と異なる結果になった場合は、予想に基づいて考えた実験方法が間違っていなかったか、使った材料は適切だったか等を振り返らせ、計画の妥当性を検証させましょう。

- ・水と金属では熱の伝わり方が違う。
- ・水は熱せられた部分が上がって全体が温まっていく。(対流)
- ・金属は熱した部分から遠くへ順に熱が伝わっていく。(伝導)

○結果と考察の違いを明確にし、課題に対する結果や考えられることの話合いを行う。  
○結果と考察を別々に行うのが普通であるが、この実験では、一緒に行うことも考えられる。

言語活動の充実

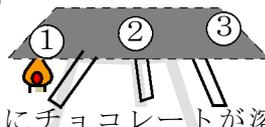
話し合い活動では、一つの結論を導くための話し合いなのか、多様な考えを交流するための話し合いなのか、目的を明確に示して行わせることが大切です。

- 8
- ・それぞれの実験方法とその結果、考察をノートにまとめる。

○各グループの実験方法とその結果、実験の考察を図式化して整理したものを板書することで、まとめ方が理解できるようにする。

【板書の例】

[結果]



①②③の順番にチョコレートが溶けた。

言語活動の充実

[考察]

- ・金属を熱すると、熱したところから遠くへ順に熱が伝わっていく。
- 金属の熱の伝わり方・・・「伝導」

- 9 片付けと自己評価を行う。

○グループで協力して片付けるよう指示する。  
○よかったところや改善したいことなどを記述して授業の振り返りができるようにする。

## 学習評価の在り方と指導要録の改善について

## 小学校 理 科

## 1 評価の観点

## (1) 教科の目標

※下線は変更点

## 【教科の目標】

自然に親しみ、見通しをもって観察、実験などを行い、問題解決の能力と自然を愛する心情を育てるとともに、自然の事物・現象についての実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を養う。

## (2) 学力の3要素と評価の観点

学力の3要素	評価の観点（新）	「理科」の観点
①基礎的・基本的な知識及び技能	○関心・意欲・態度	○自然事象への関心・意欲・態度
②思考力、判断力、表現力等	○思考・判断・表現	○科学的な思考・表現
③主体的に学習に取り組む態度	○技能	○観察・実験の技能
	○知識・理解	○自然事象についての知識・理解

## ◆評価の観点改善のポイント

- ・評価の観点の名称は現行のものと同一であるが、教科の目標及び学力の3要素を踏まえて整理されていることに留意（「表現」の位置の変更）
- ・思考・判断したことを、その内容を表現する活動と一体的に評価することが重要なポイント

## 2 評価の観点及びその趣旨

新

※下線は変更点

観 点	趣 旨
自然事象への関心・意欲・態度	自然に親しみ、意欲をもって自然の事物・現象を調べる活動を行い、自然を愛するとともに生活に生かそうとする。
科学的な思考・表現	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しをもって事象を比較したり、関係付けしたり、条件に着目したり、推論したりして調べることによって得られた関係を考察し <u>表現して</u> 、問題を解決している。
観察・実験の技能	自然の事物・現象を観察し、実験を計画的に実施し、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うとともに、それらの過程や結果を <u>的確に記録している</u> 。
自然事象についての知識・理解	自然の事物・現象の性質や規則性、相互の関係などについて <u>実感を伴って理解している</u> 。

## 3 各観点の趣旨と留意事項

## ○自然事象への関心・意欲・態度

- ・自然に親しむという状況の中で、児童が意欲をもって主体的に観察、実験などを行い、自然を愛する心情を伴いながら、調べる方法や調べた結果などを生活の中に生かしていこうとすることである。
- ・児童が観察、実験などの外的に観察可能な活動を行う中でとらえるとともに、方法や成果を

際、自然や日常生活において適用したり応用したりしていく行動の中でとらえる。

- ・ 現行と変わっていない。児童の内面に関する内容であるため、評価が難しい面がある。児童をよく観察すること、またときには感想等を書かせることで評価する。

#### ○科学的な思考・表現

- ・ 本観点については大きく見直しが行われ、「科学的な思考」に「表現」という文言を追加する。
- ・ 思考・判断したことをその内容を表現する活動（考えたことを表現）と一体的に評価する。
- ・ 本観点を評価するに当たっては、単に文章、表や図に整理して記録するという表面的な活動を評価するものではなく、基礎的・基本的な知識・技能を活用しつつ、理科の内容等に即して思考・判断したことを説明、記述などといった言語活動を通じて評価する。
- ・ 理科の学習は、問題解決の活動を重視することから、児童が問題解決の過程において、「事象を比較したり」、「関係付けたり」、「条件に着目したり」、「推論したり」して調べたことを、児童の発言や記述等からとらえる。
- ・ 観察、実験の結果を表やグラフに整理し、予想や仮説と照らし合わせながら考察を言語化（文字や文章）させる中で評価する。
- ・ 児童の考えを表現させる際に、文字や文章だけでなく、イメージ図やモデル図で表現させる。
- ・ 「解決している」という表現については児童の今現在の状態を表している。まさに、今の姿である。児童の姿をよく見てほしいというメッセージが込められている。

#### ○観察・実験の技能

- ・ 現在の「技能・表現」で評価している内容は引き続き「技能」で評価する。
- ・ 例えば「観察、実験を計画的に実施すること」「器具や機器などを目的に応じて工夫して扱うこと」「観察、実験の過程や結果を的確に記録し整理すること」等である。

#### ○自然事象についての知識・理解

- ・ 理科において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているかどうかを評価するものである。
- ・ 従前の「考えをもっている」という意味を含意する。
- ・ 自然の事物・現象を対象としながら科学的に追究することを通して、自然の事物・現象についての知識を創り、そのような考えをもっている状態をとらえることが大切である。

### 4 評価規準作成のための参考資料のポイント

□各学年（第3～6学年）とも学年全体の「評価の観点の趣旨」、A・B区分別の「評価規準に盛り込むべき事項」、学習指導要領の内容のまとまりごとの「評価規準の設定例」を記載した。

「評価の観点の趣旨」については、その学年における評価の視点を広く表し、「評価規準に盛り込むべき事項」については、A・B区分別に共通しておさえる事項を、「評価規準の設定例」については、学習指導要領の内容のまとまりごと（(1)～(5)、ア～エ）の評価規準の設定例をそれぞれ示している。

- ・ 学校における負担を考え、それぞれ簡素で効率的に評価できるように、文脈を変えずパターン化して表現している。
- ・ 国立教育政策研究所の案を参考にし、状況に合ったものを学校ごとに作成する。

□問題解決の過程を意識しながら授業を行い、評価することが大切である。

- ・ 例えば「関心・意欲・態度」は問題を見つけたり、授業後、学習した事柄を日常生活に生かす場面で、「思考・表現」は予想や仮説を立てたり、結果を表す場面で、「技能」は観察、実験の場面で、「知識・理解」は結論を明らかにする場面でそれぞれ、評価することが考えられる。
- ・ 1時間に1～2観点を評価する。単元または学年で総括して4観点を評価する。

# 小学校 生活

## 1 「目標」

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

### ここがポイント！

- (1) 教科目標は現行の指導要領の目標を維持（生活科の理念の継承）
- (2) 具体的な活動体験を通して、自立への基礎を養うこと
- (3) 学年目標の見直し（自分自身に関するものを追加、表現の価値強調 他）

## 2 「内容」

気付きの明確化と気付きの質を高める学習活動の充実

伝え合い交流する活動の充実 内容（8）新設

自然の不思議さや面白さを実感する指導の充実 内容（6）・・理科、社会との連携

安全や生命に関する教育の充実 内容（1）

生活科の内容の全体構成

階層	内容	学習対象・学習活動等	思考・認識等	能力・態度等
児童の生活圏としての環境に関する内容	(1)	■ 学校の施設の様子及び先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かる ■ 通学路の様子やその安全を守っている人々などに関心をもつ		■ 楽しく安心して遊びや生活ができる ■ 安全に登下校ができる
	(2)	■ 家庭生活を支えている家族のことや自分でできることなどについて考える		■ 自分の役割を積極的に果たすとともに、規則正しく健康に気を付けて生活することができる
	(3)	■ 自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かる		■ それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができる
自らの生活を豊かにしていくために低学年の時期に体験させておきたい活動に関する内容	(4)	■ 公共物や公共施設を利用する	■ 身の回りにはみんなで使うものがあることやそれを支えている人々がいることが分かる	■ それらを大切に、安全に気を付けて正しく利用することができる
	(5)	■ 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりなどする	■ 四季の変化や季節によって生活の様子が変わることや気付く	■ 自分たちの生活を工夫したり楽しんだりできる
	(6)	■ 身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫してつくる	■ その面白さや自然の不思議さに気付く	■ みんなで遊びを楽しむことができる
	(7)	■ 動物を飼ったり植物を育てたりする	■ それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気付く	■ 生き物への親しみをもち、大切にすることができる
自分自身の生活や成長に関する内容	(8)	■ 自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行う	■ 身近な人々とかかわることの楽しさが分かる	■ 進んで交流することができる
	(9)	■ 自分自身の成長を振り返る	■ 多くの人々の支えにより自分が大きくなったこと、自分でできるようになったこと、役割が増えたことなどが分かる	■ これまでの生活や成長を支えてくれた人々に感謝の気持ちをもつとともに、これからの成長への願いをもって、意欲的に生活することができる

### ここがポイント！

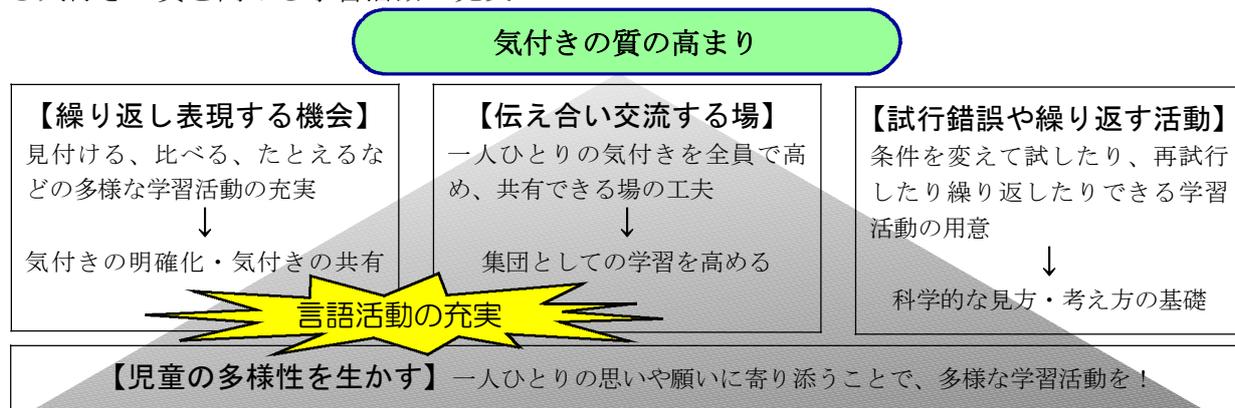
- ・ 内容の構成要素（単元構成を考えるための視点）  
＝【学習対象・学習活動等】＋【思考・認識等（気付き）】＋【能力・態度等】
- ・ 内容の階層性  
環境に関する内容 → 活動に関する内容 → 自分自身に関する内容

## 3 「指導計画の作成と内容の取扱い」における留意事項

- (1) 他教科との関連を積極的に図ること
- (2) 動植物へのかかわり方が深まるように継続的な飼育・栽培を行うこと（2年間の見通しをもちながら両方を確実に図る）
- (3) 幼児教育と小学校教育との具体的な連携を図ること（入学当初の合科的な指導、スタートカリキュラムとしての改善）
- (4) 気付きの質を高めるための多様な学習活動を工夫すること（見付ける、比べる、たとえるなど）

## 4 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業改善

○気付きの質を高める学習活動の充実



### 【「気付き」とは】

児童の主体的な活動→対象に対する一人ひとりの認識（知的・情意的な側面）→次の自発的な活動へ

### ここがポイント！

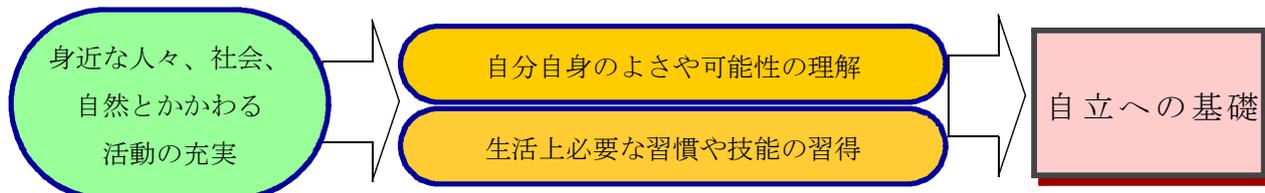
**学習活動：**児童の実態に対応したものとなっているかどうか。地域の環境を生かしたものになっているかどうか。

**表 現：**表現の出来映えのみをめざす活動になっていないかどうか。表現によって活動や体験を振り返り考えると、思考と表現の一体化という低学年の特質を生かした指導になっているかどうか。

## 5 「山口県らしい教育」の視点による授業改善

### (1) 「キャリア教育」の視点から

気付きを質的に高めていくことで、自分の特徴や可能性に気付き、自らの成長についての認識を深めたり、気付きをもとに考えたりすることができるようにする。



### (2) 「コミュニケーション能力を育む教育」の視点から

体験したことや調べたことを伝え合い交流する場を工夫する

①友達同士で伝え合う

②幼児をはじめ異学年の子どもや地域の人々などに伝える

※多様な人とかかわることを通して、よりよい生活ができるようになることをめざす。

### ここがポイント！

- ・ 伝え合う活動は、集団としての学習を高めるだけではなく、一人ひとりの気付きを質的に高めていくことにも意味がある。
- ・ 伝え合うこと自体が最終目標ではない。
- ・ 伝え合う活動から生まれたり高まったりした気付きから、新たな活動を行うことが可能となる単元計画が不可欠。

### (3) 「地域や伝統、文化を踏まえた教育」の視点から

- ・ 児童の身近な生活圏を活動や体験の場や対象にすること
- ・ 児童が身近な人や社会、自然と直接かかわる活動を重視すること

## 6 3つの基軸の視点による展開例

### ◇キャリア教育の展開例

#### ここがポイント！

- \* 自分の成長を振り返る活動の中で、過去の自分と現在の自分を比較し、自分の生活や成長について、様々な人とのかかわりがあったことに気付かせることが必要です。その気づきを表現したり交流したりすることで、児童は気づきを一層自覚し、自分の成長の背後には多くの人々の支えがあったことが分かり、自分の成長を支えてくれた人々に対する感謝の気持ちも芽生えていきます。
- \* 自分自身の成長を実感することは、さらなる成長を願う心につながります。それは、それぞれの目標に向けて努力したり挑戦したりして主体的にかかわるなど、意欲的に活動する姿になって現れてきます。児童が自分自身のよさや可能性に気づき、自分の成長に希望をもって意欲的に生活することは、自立への基礎を養うためにもとても重要です。

1 単元 あしたへジャンプ 第2学年 内容(9)自分自身の生活や成長等

#### 2 単元の目標

自分の成長に関心を持ち、人々の支えによって成長してきたことが分かり、これからの成長に自信や意欲をもって生活しようとする。

#### 3 単元の展開(全18時間)

	主な学習活動	指導上の留意点
第一次	<p>○大きくなったよ。できるようになったよ。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大きくなったことやできるようになったことを見付け、カードに記入する。</li> <li>・友達とも見せ合う。</li> <li>・教師や家族などからも成長したことやよさを伝えてもらう。</li> </ul> <p>コミュニケーション能力</p>	<p>○児童一人ひとりの状況が異なる活動なので、身体測定の結果・今までに学習したノートや活動の記録・作文や図工の作品等の資料を準備しておき、児童に寄り添いながら個に応じた支援を行う。</p> <p>活動のねらいや内容を事前に保護者に伝えて理解と協力を得ることが必要です。また、児童の成長の過程や環境がそれぞれ異なっていることに十分に配慮することも大切です。</p>
第二次	<p>○成長したことをまとめよう。(10)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・名前の由来を調べたり、思い出につながる品物や写真等を準備したりする。</li> <li>・家族から手紙をもらい、成長を支えてくれた感謝の気持ちを手紙に書く。</li> <li>・これまで集めた資料をもとに自分なりの方法でまとめる。</li> <li>・発表会をする。</li> </ul> <p>コミュニケーション能力</p>	<p>○家族や成長を支えてくれた人々の喜びや苦勞を知らせ、感謝の気持ちを手紙に書いて伝えるようにする。</p> <p>言語活動の充実</p> <p>○自分の成長の過程や得意なことなどを発表し合ったり、互いのがんばりやよさを認め合ったりして自信をもたせる。</p> <p>授業改善の視点</p> <p>「自分が生まれてから現在までの成長の記録」を作るだけの学習にならないように、単元のねらいをしっかりと押さえて学習計画を立てることが重要です。</p>
第三次	<p>○あしたへジャンプ。(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生の教室を見学に行き、3年生になってからの夢や希望をもつ。</li> </ul> <p>キャリア教育</p>	<p>○「こんな3年生になりたい」「やってみたいこと」などを絵や作文にかいて発表させることにより、3年生への期待や夢、さらに成長しようとする意欲をもてるよう支援する。</p>

## ◇コミュニケーション能力を育む教育の展開例

### ここがポイント!

- \* 友達や先生と親しくかかわったり、学校探検で学校の施設等を調べたりする活動を通して、安全に気を付けて楽しく学校生活を送ることができるようにします。その際に行う自己紹介や自己紹介カード作り、インタビュー、気付きのまとめ等の活動を通して、言語活動の充実やコミュニケーション能力の育成を意図的に行っていくことが重要です。
- \* この内容の取扱いに当たっては、1年生の始めの単元として行うだけでなく、他の内容と関連させて継続的に行うことも考えられます。

1 単元 大好き学校 友達いっぱい 第1学年 内容(1)学校の施設の様子等

### 2 単元の目標

学級や学年の友達、異学年や学校で働く人々等とふれ合ったり、様々な施設、設備、用具などをみんなで使ったりする中で、学校は自分にとって安心して過ごせる場所であることに気付き、自信と意欲をもってこれからの学校生活を過ごすことができる。

### 3 単元の展開(全17時間)

	主な学習活動	指導上の留意点
第一次	<p>○楽しいことがいっぱいあるよ。(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・隣の人や先生の名前を覚える。</li> <li>・自己紹介カードを作り自己紹介ゲームをする。</li> </ul> <p>言語活動の充実</p> <p>・「1年生を迎える会」の準備をしたり参加したりする。</p>	<p>○入学式当日から授業として位置づけ、次の日も来たいと思えるように本の読み聞かせやゲーム等を時間に合わせて行う。</p> <p>生活科を中心に様々な教科等に関連させたり、合科的に取り扱ったり、授業の時間を45分でなく15分等で弾力的に構成するなど、スタートカリキュラムとして工夫することが大切です。</p> <p>授業改善の視点</p>
第二次	<p>○学校探検をしよう。(6)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校探検で出会った人にインタビューし、学校生活を支えている人々や上級生と進んでかかわりをもつ。</li> </ul> <p>コミュニケーション能力</p>	<p>○1年生が学校探検を行うことを全教職員に事前に知らせ、普段の様子を見せてもらうことやインタビューへの協力を依頼し、伝え合う活動の充実を図る。</p> <p>授業改善の視点</p> <p>児童の主体的な活動を行うために、全校的な協働体制がとれるようにすることが必要です。</p> <p>学校探検を2年生等との合同学習にすることで異学年との交流を図ったり、コミュニケーション能力を育んだりすることもできます。</p>
第三次	<p>○発見したことなどを伝えよう。(5)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発見したことや分かったことなどを、言葉や絵で表現する。</li> </ul> <p>言語活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友だちと意見交換をしたり、家の人に伝えたりする。</li> </ul> <p>コミュニケーション能力</p>	<p>○感情や思いを表現したり受け止めたりする活動を通して、豊かな表現力等を育成するとともに、自信と意欲をもって学校生活を過ごすことができるようにする。</p> <p>一人ひとりの気付きを全員で共有し、みんなで高めていくことが重要です。</p> <p>授業改善の視点</p>

## 学習評価の在り方と指導要録の改善について

## 小学校 生 活

## 1 評価の観点

## (1) 教科の目標

## 【教科の目標】

具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然とのかかわりに関心を持ち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養う。

## (2) 学力の3要素と評価の観点

学力の3要素	「生活」の観点
①基礎的・基本的な知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度	○生活への関心・意欲・態度 ○活動や体験についての思考・表現 ○身近な環境や自分についての気付き

## ◆改善のポイント

- ・評価の観点の名称は現行のものと同一であるが、その趣旨については、学習指導要領の改訂を踏まえ、十分留意する必要がある。

## 2 評価の観点及びその趣旨

新

※下線は変更点

観 点	趣 旨
生活への関心・意欲・態度	身近な環境や自分自身に関心を持ち、進んでそれらとかがわり、楽しく学習したり、生活したりしようとする。
活動や体験についての思考・表現	具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現している。
身近な環境や自分についての気付き	具体的な活動や体験によって、自分と身近な人、社会、自然とのかかわり及び自分自身のよさなどに気付いている。

## 3 各観点の趣旨と留意事項

## ○生活への関心・意欲・態度

- ・児童が、身近な人、社会、自然、自分自身や自分の生活にどれほど関心を示し、どれほど意欲的に取り組んでいたか、また、そうした取組を通して、どのような態度を身に付けたかを評価
- ・児童が、身近な人、社会、自然と直接かかわる中で様々な刺激を受け、その刺激に対して反応する中で、何かをやり遂げようとする意欲や態度を形成していくことが重要
- ・児童の姿を幅広く丁寧に見取り、継続的に長期にわたってその変容をとらえることが大切

### ○活動や体験についての思考・表現

- ・生活科では、具体的な活動や体験を通すことが基本
- ・生活科では、これまでも思考と表現が一体的であり、思考の流れとしての表現を見取ってきたことを継承
- ・単に表面的な現象としての出来映えなどを評価するのではなく、思考・判断したことを、その表れとして表現している姿を評価することが重要
- ・児童が調べたり、育てたり、作ったりするなどの具体的な活動や自分の生活について、自分なりに考えたり、工夫したり、振り返ったりするなどの思考の様子を見取ることが大切
- ・活動や体験の楽しさ、考えたり工夫したりしたこと、振り返ったことなどを、その児童なりに素直に表現している姿を見取っていくことが大切

### ○身近な環境や自分についての気付き

- ・具体的な活動や体験を通して児童の中に生まれる気付きを大切に、どのようなことを、どのように気付いているかを見取っていくことが重要
- ・児童の気付きは大きく分けて、①学校、家庭、地域、公共物、身近な自然、動植物、自分の成長などの様子、②それらと自分とのかかわり、③自分自身のよさ、の三つに分けることができる。気付きは、対象にする一人ひとりの認識であり、児童の主體的な活動によって生まれ、次の自発的な活動を誘発するものであり、評価の観点として大切

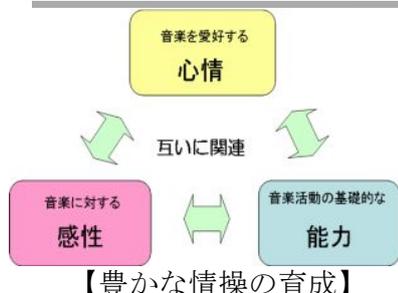
## 4 評価規準作成のための参考資料のポイント

- 生活科においては、学習指導要領の内容の「(1)学校と生活」「(2)家庭と生活」「(3)地域と生活」「(4)公共物や公共施設の利用」「(5)季節の変化と生活」「(6)自然や物を使った遊び」「(7)動植物の飼育・栽培」「(8)生活や出来事の交流」「(9)自分の成長」の9項目の内容のまとまりごとに「評価規準に盛り込むべき事項」と「評価規準の設定例」が作成されている。「評価規準に盛り込むべき事項」は、学習指導要領の教科の目標、学年の目標及び内容の記述を基に、学習評価及び指導要録の改善通知で示されている生活科の評価の観点及びその趣旨、学年別の評価の観点の趣旨を踏まえて作成され、「評価規準の設定例」は、学習指導要領解説の記述を基に作成されている。これを参考に、具体的な評価規準は、指導計画に応じて各学校で設定すること。「評価規準の設定例」は例であり、これがすべてではない。
- 「学習活動（小単元）における評価規準」だけでは、子どもの学習状況を見取ることが難しい場合があるので、確かな見取りにつなげるため、評価規準を具体的な児童の姿として表しておくことが考えられる。
- 妥当性・信頼性のある評価を進めるために、単元の大きさと評価規準の数を適切にすること。そのために、小単元を適切な大きさ（時間数）にして、各小単元において重点的に指導する評価規準を意識し、単元全体においてバランスよく評価規準を設定。その際、単元全体での評価回数、単元の評価規準との整合性などにも配慮が必要。また、2つの小単元を通した評価規準を設定することも考えられる。
- 「A」「B」「C」の評価結果だけでなく、それをどのような具体的な事実から結論づけたのかという「判断の根拠」を明確にする。その際、「量的な面」に偏ることのないよう、「質的な面」からもとらえる。特に「A」と評価した児童については、作品、ワークシート、感想文、教師の観察の記録などに基づいて、判断の根拠を明らかにしておく。その際、どのような質的な高まりや広がりがあったのかを明らかにする必要がある。
- 2年間を通して児童に身につけさせる力を明らかにし、長期的な視点から指導計画と一体となった評価計画を作成する必要がある。

# 小学校 音楽

## 1 「目標」

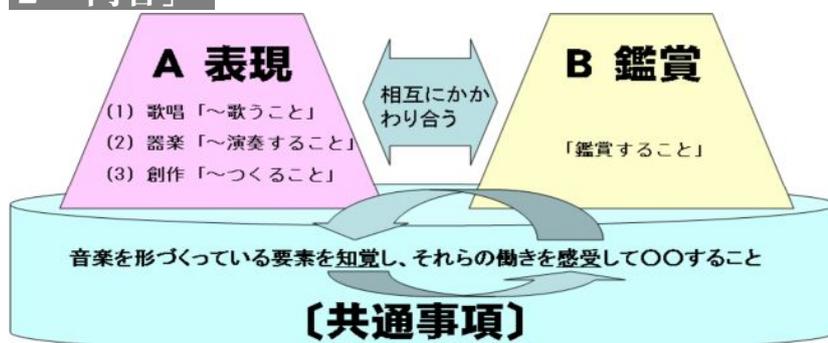
表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。



### ここがポイント！

- (1) 思いや意図をもって表現したり、味わって聴いたりする力を育成すること
- (2) 音や音楽を知覚し、そのよさや特質を感じ取り、思考・判断する力を一層重視すること
- (3) 我が国や郷土の伝統音楽の指導が一層充実して行われるようにすること

## 2 「内容」



### ここがポイント！

- 歌唱・器楽・創作・鑑賞のバランスのとれた活動
- 共通事項の新設（歌唱・器楽・創作・鑑賞の各活動の支えとなるもの）
- 内容の構成（小・中・高の連続性の配慮）

### ◎改訂の要点

- ・歌唱共通教材については、取り扱う楽曲数を各学年とも増加することとした。具体的には、第1学年から第4学年までは4曲すべて取り扱うこととし、第5学年及び第6学年は4曲中3曲を含めて取り扱うこととした。
- ・音遊びや即興的に表現することを通して音の面白さに気付いたり、音楽づくりの様々な発想をもったりすることを重視するなどの内容の改善を図った。また、音を音楽に構成する過程を大切にし、〔共通事項〕に示す音楽の仕組みを手がかりにして、児童が思いや意図をもって音楽をつくるようにすることの重要性を示した。
- ・鑑賞教材選択の観点について、これまでの第5学年及び第6学年に位置付けていた我が国の音楽を第3学年及び第4学年にも新たに位置付けることとした。

### ここがポイント！

- ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取ること、記号や音楽に関する用語について音楽活動を通して理解することを〔共通事項〕として新たに示した。
- ・〔共通事項〕は、それのみを扱うのではなく、表現及び鑑賞の各活動の中で扱うものである。

## 3 「指導計画の作成と内容の取扱い」における留意事項

- (1) 国歌「君が代」は、いずれの学年においても歌えるように指導する。
- (2) 低学年は生活科との関連を図り、幼稚園との連携の強化及び接続に配慮する。
- (3) 歌唱については、相対的な音程感覚を育てるために、適宜、移動ド唱法を用いる。

## 4 新学習指導要領の趣旨や内容に対応した授業改善

### ■言語活動の充実について

「鑑賞領域の各学年の内容に感じ取ったことを言葉で表すなどの活動を位置付け、楽曲の演奏の楽しさに気が付いたり、楽曲の特徴や演奏のよさに気が付いたり理解したりする能力が高まるよう改善を図った。」

【小学校学習指導要領解説音楽編より抜粋】

「A表現」では、作曲家・作詞者の思いを探ったり、詩の意味を考えたり、表現方法を探究したりすることなどが考えられる。「B鑑賞」では、楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すことなどが考えられる。

### ■音楽科の「学力」について

「歌う」「演奏する」「聴く」



「どのように歌うのか」  
「どのように演奏するのか」  
「何をどのように聴くのか」

### 音楽を形づくっている要素の知覚とそのよさや特質の感受

心情、感性、能力を互いに関連させ合いながら育成

『思いや意図をもって表現したり味わって聴いたりする力』

人間が音楽というものをとらえる本質的な方法

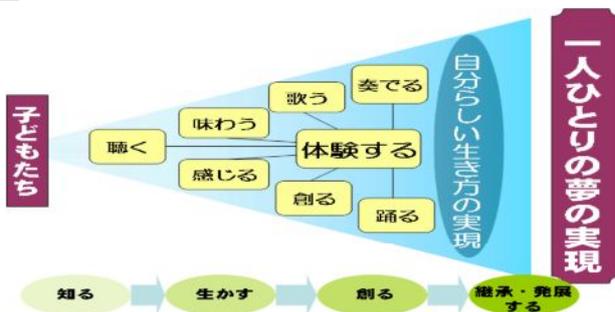
### ここがポイント！

子どもたちの心を揺さぶり、興味・関心をかき立てながら活動させることが大切になる。「なぜだろう」「わくわくする」「なるほど」と共感・納得させる『仕掛け』を創るようにすること

## 5 3つの基軸の視点による授業改善

### (1)「キャリア教育」の視点から

様々な楽曲に出会い、曲の背景や創った人の思いを知ることで、自分自身を見つめることにつながる。生の音楽や演奏者にふれ、体験することは夢を描く瞬間である。音楽活動は自分らしい生き方、つまり一人ひとりの夢の実現につながる。教師の興味・関心の度合いは、子どもたちの感じ方に反映する。



### (2)「コミュニケーション能力を育む教育の視点から」

音楽は、音を媒体として演奏者と聴衆者、アンサンブルや合唱等での演奏者同士、鑑賞、音楽づくりの発表など、すべての活動でコミュニケーションが伴っている。音楽では、「伝え合い」、「共感し合い」、「高め合う」という一連のコミュニケーション能力の育成が重要となる。

### ここがポイント！

- ・楽譜から読み取ったことをもとに仲間と一っしょに表現を工夫すること
- ・表現したい内容を言葉や図などで記録したり、表現のイメージなどを適切な言葉を用いて伝え合ったりすること
- ・感じ取ったことなどを言葉で表すなどの活動を位置付け、楽曲や演奏の楽しさに気が付いたり、楽曲の演奏のよさを見付けたりすること

### (3)「地域や伝統、文化を踏まえた教育」の視点から

- ・鑑賞活動において、1年生では我が国のわらべうたや遊び歌を取り扱うこと
- ・和楽器の音楽を含めた我が国の音楽、郷土の音楽について、3年生から鑑賞教材として取り扱うこと
- ・それぞれの土地で伝承され親しまれてきたものには、味わいのあるものが多く、郷土の民謡をはじめ、地域の伝統芸能の取扱いの充実を図ること

## 6 3つの基軸の視点による展開例

### ◇コミュニケーション能力を育む教育の展開例

#### ここがポイント!

- \* 音楽表現や鑑賞の場では、音や音楽を児童にとって意味の分かりやすい言葉に置き換えていくような言語活動を仕組むことが一つのポイントになります。
- \* 共通事項に示されている音楽を特徴づけている要素（音色やリズムなど）や音楽の仕組み（反復や問いと答えなど）を手掛かりにすれば、「人が歩いているような音」や「同じ人がまた歩いてくる」など、その学年の児童ならではの言語化、身振りや手振りによる動作化、絵や図に表すなど視覚化することができ、具体的なイメージを広げられます。

1 題材 おとの つよさに きをつけて 第1学年 トルコこうしんきょく

2 主眼

音の強弱と行進の様子が結びついている様子を言葉や体の動きなどで表現する活動を通して、味わって聴く。

3 学習過程

学習内容・学習活動	指導上の留意点
<p>1 「トルコこうしんきょく」を聴き、音楽の特徴について気付いたことについて、話し合う。</p> <p style="text-align: center;"><b>言語活動の充実</b></p> <p>「音の強弱」の言語化・動作化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・兵隊が近づいてくる様子</li> <li>・兵隊が離れていく様子</li> </ul> <p>「兵隊が近づいてくると音が次第に大きくなること」や「兵隊が遠ざかると音が次第に小さくなっていくこと」を動作化を通して、自分の体験と結び付けて考えられるようにするなど、自分の感じたことを素直に表現できるようにすることが大切です。</p>	<p>○何が行進しているのか興味をもたせながら音楽を聴き、素直に感じたことを発表できるようにする。</p> <p>○兵隊が近づいてくるとどうなるか問いながら、音の大きさが変化していることに気付くことができるようにする。</p>
<p>2 音楽の始まりと終わりに注意しながら音楽に合わせて兵隊が歩いてくる様子を動作化しながら聴く。</p> <p style="text-align: center;"><b>コミュニケーション能力</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小さな足音から大きな足音へ</li> <li>・音楽が次第に大きくなっていく様子</li> </ul> <p>「音が大きくなっているところ」が音楽隊が近づいてくる様子につながることを実際に歩いたり手拍子を打ったりしながら、その様子を模擬体験することが大切です。</p>	<p>○音楽に合わせて、行進が近づいたり遠ざかったりする様子を聴く人と行進の役に分かれて演じたり、兵隊が楽器を演奏しながら歩いてくる様子を手拍子や足踏みで表したりすることで、体験的な理解を深める。</p>
<p>3 旋律が変わると兵隊の歩いている様子が変わっていくことを想像しながら、味わって聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ旋律の繰り返し・・・いつもの兵隊</li> <li>・異なる旋律の登場・・・新しい兵隊</li> </ul> <p>複数の旋律が表れることに気付くようにしたり、演奏する楽器によって演じる人を交替したりするなどして、反復や変化などの音楽の仕組みに気付くことができるようにすることが大切です。</p>	<p>○音楽の変化や旋律の違いを言語化する活動を取り入れることによって、気付かなかった旋律や楽器の音色の特徴などを感じ取って、それぞれの表現のよさを味わえるようにする。</p>

## ◇地域や伝統、文化を踏まえた教育の展開例

### ここがポイント！

- \* 地域や伝統、文化を踏まえた教育を実践していく上で、山口県伝統・文化教材集に例示しているような身近な素材を教材化していくことが大切であるとともに、我が国固有の文化のよさを児童が理解を深められるような授業のアイデアを充実させていくことも重要です。
- \* 自国の文化と外国の文化の共通点・相違点を探る活動を通して、それぞれの文化のよさに気付き、これらを尊重しようとする態度を育てることが大切です。

1 題材 雅楽とオーケストラ 第6学年 日本の音楽

2 主眼

雅楽とオーケストラの演奏を聴き比べ、共通点や相違点について話し合う活動を通して、雅楽の音楽の特徴を感じ取り、そのよさを味わう。

3 学習過程

学習内容・学習活動	指導上の留意点
<p>1 雅楽「越天楽」を聴き、雅楽の特徴について発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">地域や伝統、文化</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演奏形態の特徴</li> <li>・用いられる楽器の種類</li> <li>・特有の音色</li> </ul> <p>「日本の音楽」と「外国の音楽」を聴き比べる活動は、児童にとっては聴き取る内容を明確にしやすい活動であり、各自の気付きや考えをもたせるためには有効な手段の一つです。ここでは、双方とも弦楽器と管楽器・打楽器が用いられており、合奏形態に共通点を見出しやすいことから雅楽とオーケストラを取り上げています。</p>	<p>○雅楽の演奏形態と管弦楽の演奏形態を視覚的に比較できるように、映像資料をそれぞれ提示し、用いられる楽器の違いや共通点を見いだすなど、これまでの音楽経験を生かした気付きを引き出せるようにする。</p>
<p>2 雅楽「越天楽」と組曲「王宮の花火の音楽」を聴き比べ、雅楽とオーケストラの違いや共通点について話し合ったり、雅楽の特徴を見出したりする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・撥弦楽器と擦弦楽器</li> <li>・楽器や音色の違いや共通点</li> <li>・旋律やテンポなどの違いや共通点</li> </ul> <p>視覚を通して気付いた楽器の違いだけではなく、それぞれ楽器の音色や旋律、リズムなどに着目させ、そのよさに気付かせることが大切です。</p>	<p>○同じ弦楽器でも楽器の形態だけでなく、奏法の違い等から、それぞれの楽器の音色や音の響きなどの違い・共通点に着目させ、各楽器固有の音色のよさや音楽の特徴に気付かせる。</p>
<p>3 雅楽の特徴に気付き、各楽器の音色や旋律等を感じ取って、雅楽のよさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雅楽ならではの音の響きや旋律の味わい</li> <li>・オーケストラ特有の響きのよさ</li> </ul> <p>例えば、雅楽グループとオーケストラグループをつくり、そのよさを伝え合う場を位置付けることで、コミュニケーションを活性化させることもアイデアの一つです。</p>	<p>○雅楽と管弦楽のよさや、違い、共通点などに着目しながら音楽を聴く活動や互いに感じたことを話し合う活動を取り入れることによって、気付かなかったよさや各楽器の音色、旋律等の特徴など、それぞれの表現のよさを味わえるようにする。</p>

## 学習評価の在り方と指導要録の改善について

## 小学校 音楽

## 1 評価の観点

## (1) 教科の目標と評価の観点

## 【教科の目標】

表現及び鑑賞の活動を通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育てるとともに、音楽活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。

## (2) 学力の3要素と評価の観点

学力の3要素	評価の観点（新）	「音楽」の観点
①基礎的・基本的な知識及び技能 ②思考力、判断力、表現力等 ③主体的に学習に取り組む態度	○関心・意欲・態度 ○思考・判断・表現 ○技能 ○知識・理解	○音楽への関心・意欲・態度 ○音楽表現の創意工夫 ○音楽表現の技能 ○鑑賞の能力

## ◆改善のポイント

- ・評価の観点の名称は現行のものと異なっているが、学習指導要領の改訂を踏まえ、その趣旨を明確にしたものである。
- ・音楽的な感受の内容については、共通事項に示されているように、全ての活動を支えるものであり、いずれの観点においても評価の対象となる。

## 2 評価の観点及びその趣旨

新

※下線は変更点

観 点	趣 旨
音楽への関心・意欲・態度	音楽に親しみ、 <u>音や音楽に対する関心</u> をもち、 <u>音楽表現や鑑賞の学習</u> に自ら取り組もうとする。
音楽表現の創意工夫	<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り</u> 、 <u>それらの働きが生み出すよさや面白さ</u> などを感じ取りながら、 <u>音楽表現を工夫し</u> 、 <u>どのように表すか</u> について思いや意図をもっている。
音楽表現の技能	<u>音楽表現</u> をするための基礎的な技能を身に付け、 <u>歌ったり</u> 、 <u>楽器を演奏したり</u> 、 <u>音楽をつくったり</u> している。
鑑賞の能力	<u>音楽を形づくっている要素を聴き取り</u> 、 <u>それらの働きが生み出すよさや面白さ</u> などを感じ取りながら、 <u>楽曲の特徴やよさ</u> などを考え、 <u>味わって聴いている</u> 。

### 3 各観点の趣旨と留意事項

#### ○音楽への関心・意欲・態度

- ・音楽に親しみ、音や音楽に対する関心をもち、音楽表現や鑑賞の学習に自ら取り組もうとする状況の評価
- ・例えば、リコーダーの音色と旋律の音のつながり方に関心をもち、それらを生かして表現をする活動に自ら取り組もうとするといったように、学習の対象を明確にし、それに対する関心と主体的な取組の状況を把握

#### ○音楽表現の創意工夫

- ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、音楽表現を工夫し、どのように表すかについて思いや意図をもっている状況の評価
- ・現行の評価の観点「音楽的な感受や表現の工夫」を踏襲
- ・どのように音楽表現をするかの思考・判断に結びつくように〔共通事項〕を扱い、このように歌いたい、楽器を演奏したい、音楽をつくりたい、といった思いや意図をもつことができるような学習が大切
- ・音楽的な感受に基づきながら創意工夫している状況を把握

#### ○音楽表現の技能

- ・音楽表現をするための基礎的な技能を身に付け、歌ったり、楽器を演奏したり、音楽をつくったりする状況の評価
- ・指導のねらいや学習活動の展開等に応じて、特に「音楽表現の創意工夫」の評価の観点で見る力の育成と関連させながら、音楽表現をするための基礎的な技能を育み、歌唱、器楽、音楽づくりで表している状況を把握

#### ○鑑賞の能力

- ・音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さなどを感じ取りながら、楽曲の特徴や演奏のよさなどを考え、味わって聴いている状況の評価
- ・現行の評価の観点である「音楽的な感受や表現の工夫」のうちの「音楽的な感受」で見ていた力もこの観点に含めて評価
- ・楽曲を全体にわたって感じ取り、楽曲の構造・特徴や演奏のよさなどを理解して聴くための思考・判断に結び付くように〔共通事項〕を扱い、味わって聴くことができるような学習が大切
- ・音楽的な感受に基づきながら楽曲の特徴や演奏のよさなどについて考え、味わって聴いている状況を把握

### 4 評価規準作成のための参考資料のポイント

- 音楽科においては、学習指導要領の内容の「A表現」の活動分野である歌唱、器楽、音楽づくりと「B鑑賞」を内容のまとまりとして、各指導事項ごとに学習指導要領の内容に基づいて「内容のまとまりごとの評価規準に盛り込むべき事項」を作成
- 内容のまとまりとは、「A表現・歌唱」、「A表現・器楽」、「A表現・音楽づくり」、「B鑑賞」をさす。
- 〔共通事項〕は、各内容のまとまりに含める。
- 「評価規準の設定例」については、「評価規準に盛り込むべき事項」を参考に作成
- 具体的な評価規準は、指導計画に応じて各学校で設定すること
- 「音楽を形づくっている要素」の内容は、音色、リズム、速度、旋律、強弱、拍の流れやフレーズなどの音楽を特徴付けている要素、反復、問いなどの音楽の仕組みを含む。
- 「音楽を形づくっている要素」の内容は指導のねらい、教材、学習活動等に即して適切な要素を選択して取り扱う。